KENWOOD

MP3/WMA対応CDレシーバー

FX-9100

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、
説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用する
ことはできません。

Functional Operation

ソースセレクション

キーモードセレクション

CD/MP3/WMA/Changer/KSF モード

TUNER モード

Name Set

ディスプレイコントロール

オーディオコントロール

Menu

EZ Operation

オプション

リモートコントロール

Help

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

使いこなし!
ファンクショナルオペレーション

Functional Operation

ここさえ読めばひとまずOK!
イージーオペレーション

EZ Operation

© B64-2740-00/01 (JV)

Contents

ここを読まなければ操作できない！
この取扱説明書を読むルールが書いてあります。

本書の読みかた

ここさえ読めばひとまずOK!
イージーオペレーション

EZ Operation

リモコンでも操作できるゾ！

リモートコントロール

思ったとおりに動作しなかったとき
わからない用語が出てきたら…
困ったときのお助けページ！

Help

取り付け方法など

付　録

使いこなし!　ファンクショナルオペレーション

Functional Operation

オプションも使いこなそう！　オプションズ

Options

Functional Operation
ソースセレクション
キーモードセレクション
CD/MP3/WMA/Changer/KSF モード
TUNER モード
Name Set
ディスプレイコントロール
オーディオコントロール
Menu
EZ Operation
オプション
リモートコントロール
Help

本書の読みかた

この取扱説明書では、本機の使いかたや別売品を大きく次の４つのブロックに分けて説明しています。

ここさえ読めばひとまずOK!
イージーオペレーション

EZ Operation

すぐに使いたいかたのために、必要最小限の機能をできるだけ簡単に説明しています。
ここだけ読めば、とりあえずお使いいただけます。

使いこなし!　ファンクショナルオペレーション

Functional Operation

EZ Operationを習得したらここへ。
すべての機能をステップバイステップで説明しています。ここを読めば、十分に使いこなすことができます。

オプションも使いこなそう! オプションズ

Options

本機に接続できる別売品の機能の使いかたを説明しています。
別売品を接続しているときにお読みください。

Help

? Operation　思ったとおりに動作しなかったときの原因と対策を説明しています。

? Multi Key　マルチキーシステムについて説明しています。

? MP3/WMA　本機でプレイできるMP3/WMAファイルのメディアやそのフォーマットの説明をしています。

? Word　取扱説明書やディスプレイに表示される用語を解説しています。

これらのほかに、リモコンによる操作を説明した［リモートコントロール］、本機の取り付け方法などを説明した［付録］があります。

取扱説明書に記載されているディスプレイ部やパネルの表記は操作説明を円滑に行うための表示例です。このため、実際の機器とは異なることや、実際にはありえない表示パターンが記載されていることがあります。

本文でのマークについて

共通の操作
ソースにかかわらない共通の操作を表しています。

CD/MP3/WMAの操作
CD/MP3/WMAをプレイする操作を表しています。

チューナーの操作
FM/AM放送を受信する操作を表しています。

注意
ケガなどを防ぐための大切な注意事項を表しています。

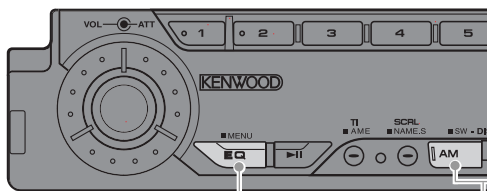
メモ
本機の損傷を防ぐための注意事項を表しています。
また、機能・使用方法の制限や使いかたのアドバイスも表しています。

短かく押す

ボタンをチョンと押すことを表します。

１秒以上押す

1秒以上（メモリーに書き込むときは2秒以上）押す操作を表しています。

動作が始まるまで、または画面の表示が変わるまでボタンを押し続けることを表します。
通常、１秒間押します。また、メモリーに書き込むときには２秒間押します。押す秒数は矢印の中の表示を目安にできます。

この辺ボタンABC…
操作するボタンがどこにあるのか…、位置を表すためのマークです。

ソース選択

プレイするソースを切り替えます。

ディスプレイ表示スクロール
ボタンを押すたびに切り替わるモードや表示を表します。

押すたびに次の順で切り替わり

表示	内容
TUNER	FM/AM放送を受信
Compact Disc	CD/MP3/WMAをプレイ
AUX	内蔵AUXに入力された音を出力
STANDBY	電源をオンのままで機能を停止

内容の説明

表示される文字または内容

メニュー設定

操作時のビープ音などの各種の機能を設定します。

1 設定する項目があるソースにします

2 メニューモードにします

ディスプレイ表示
このディスプレイが表示されるまでボタンを押すことを表します。

MENU

"MENU"と表示されるまで押し続けます。

3 設定する項

4 値を選択し

設定できる項

上記マーク表記例は実際の操作とは異なります。

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について：
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為にいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

絵表示の例

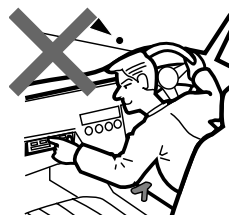
⚠記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な指示内容が描かれています。

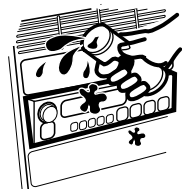
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください。

⚠警告

運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから、行ってください。
- カーオーディオの操作（音量調節、ディスクの挿入・取り出し　など）

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

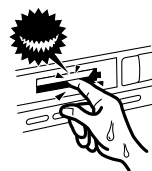
以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

●音が出ない
●ディスプレイが表示されない
●異物が入った
●水がかかった
●煙が出る
●変な匂いがする

禁 止

修理は必ず購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所にご依頼ください。お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。

禁 止

製品の分解や改造はしないでください。
火災その他の事故の原因となります。

⚠注意

禁 止

ディスク挿入口に手や指を入れないでください。ケガをすることがあります。

禁 止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。

禁 止

製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。

禁 止

本製品に、強い衝撃を与えないようにしてください。ガラス部品を使用しているため、割れてケガをするおそれがあります。

実 施

本製品の取り付け・配線は技術と経験が必要です。安全のため＜お買い上げの販売店＞にご依頼ください。

使用上のご注意

本機に接続できるシステムについて

本機には、1998年以降に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー、CDプレーヤー、LX-BUS接続のTVモニターやナビゲーションシステムが接続できます。接続できるディスクチェンジャー、CDプレーヤー、LX-BUS接続のTVモニターやナビゲーションシステムの機種はカタログをご覧ください。

●

1997年以前に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー／CDプレーヤー、および他社製のディスクチェンジャーは接続することはできません。接続すると破損や故障の原因となります。

●

“O-Nスイッチ”の付いているケンウッド製ディスクチェンジャー／CDプレーヤーは“N”側に設定してください。

●

接続している機種により、使用できる機能や表示できる情報が異なる場合があります。

●

本機のDNPS機能はCDチェンジャーに内蔵の記憶機能を使用するのではなく本機内部の記憶機能を使用します。このため、CDチェンジャーに記憶されているDNPS可能枚数とは関係なく、すべてのCDの合計で30枚まで記憶することができます。

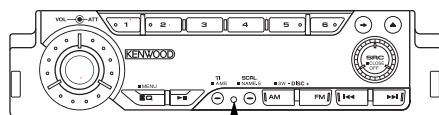
●

別売品のCD/MDスイッチングユニット“KCA-S210A”を使用するとディスクチェンジャーを2台まで、またはディスクチェンジャーとLX-BUS接続の機器を1台ずつ接続することができます。接続などの詳しい説明は「接続」(82ページ) および KCA-S210Aに付属の取扱説明書をご覧ください。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露（水滴）が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。
このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。
もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、購入店またはケンウッドサービスセンターへ連絡してください。

本機の異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まず「Help」(66ページ)を参照して解決方法がないかお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタンをペン先などで押してください。

リセットボタン

●

リセットボタンを押しても正常に戻らないときは、本機の電源をオフにして、購入店またはお近くのケンウッドサービスセンターへ相談してください。

温度について

直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。
本機内部が60℃を越える高温になると、保護回路が働いてディスクの演奏ができなくなります。
このようなときは、車内の温度を下げてください。保護回路機能が解除され、演奏ができる状態になります。もし正常に動作しないときはリセットボタンを押してください。

本機のお手入れについて

本機の前面パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。
スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与えたり、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

使用できないCD

特殊な形状のCDは使用できません。必ず円形のものをご使用ください。円形以外のCDを使用すると故障の原因になります。

●

記録面（レーベル面の反対側）が着色してあるものや汚れているCDは引き込まない、取り出せないなどの誤動作をすることがあります。

●

本機でプレイ可能なディスクは マークの入ったCDだけです。
前記マークの入っていないディスクは、プレイが正しくできない場合があります。

●

ファイナライズ処理を行っていないCD-RおよびCD-RWは再生できません。（ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-R/CD-RWレコーダーの説明書をご覧ください）
このほかにもCD-RやCD-RWで記録されたCDは、記録状態により再生できない場合があります。

●

レーベル面にシールの貼ってあるCDを使用すると、CDが変形したり、シールがはがれることがあります。本機の故障の原因となることもあるため、レーベル面にシールの貼ってあるCDは使用しないでください。

●

インクジェットプリンターでレーベル面に印刷可能なCD-R/CD-RWは使用しないでください。使用すると、誤動作することがあります。

オートアンテナ付き車に取り付けた場合

ラジオのアンテナが自動的に伸びるオートアンテナ車に取り付けた場合、チューナーモードにしたり交通情報機能をオンにすると、車両のアンテナが自動的に伸びます。
天井の低い車庫に入る場合は、本機の電源をオフにするか、FM/AM放送以外のソースに切り替えてください。

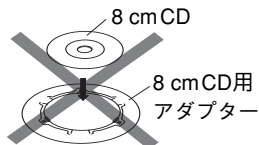
レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

CD用アクセサリーについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は故障の原因となりますので使用しないでください。

●

8cmCDはアダプターは使用せず、そのまま挿入してください。8cmCDアダプターを使用するとディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。
また、接続するCDチェンジャーで8cmCDを使用する場合は別売の8cmCD用マガジンをご使用ください。

CDの取り扱い

CDの取り扱いについて

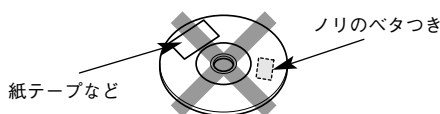
CDの汚れや、ゴミ、キズ、反りなどが、音飛びなどの誤動作や、音質劣化の原因になることがあります。取り扱いは記録面に触れないようにしてください。（レーベルが印刷されていない面が記録面です）

●

CD-RやCD-RWは通常の音楽CDより反射膜が弱いため、傷が付くことなどにより、はがれることがあります。また、指紋による音飛びにも弱いメディアです。取り扱いには十分注意をしてください。詳細な注意事項がCD-RおよびCD-RWのパッケージなどにも書かれています。それらの注意事項も読んでから使用してください。

●

記録面や、レーベルが印刷されている面に紙テープなどを貼らないでください。

CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどのノリがはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのままCDプレーヤーにかけるとCD が取り出せなくなったり、故障することがあります。

CDの保存

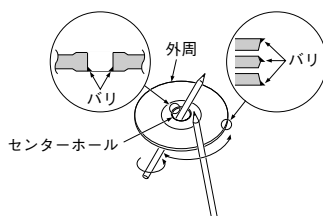
直射日光があたる場所（シートやダッシュボードの上）など、温度が高い場所には置かないでください。特にCD-R、CD-RWは通常の音楽CDに比べ、高温、多湿の環境に弱く、ディスクによっては車内に長時間放置すると使用できなくなる場合があります。

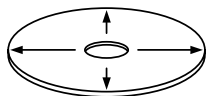
●

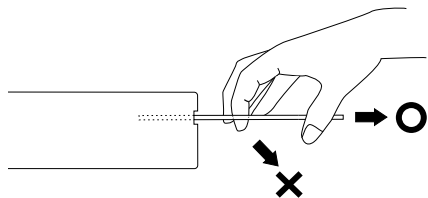
長期間演奏しないときは、本機からCDを取り出して、ケースに入れて保管してください。

キズ、汚れ、反りの原因になりますので、ケースに入れずに重ねて置いたり、斜めに立てかけて保存しないでください。

新しいCDを使うときは

新しいCDを使うときは、CDのセンターホールや外周部に"バリ"がないことを確認してください。"バリ"がついたまま使用すると、CDが挿入できなかったり音飛びの原因になります。"バリ"があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。

CDのお手入れ

CDが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。

CDの取り出しかた

本機からCDを取り出すときは水平方向に引き出してください。
下側に強く押しながら引き出すとCDの記録面に傷を付ける原因となります。

CD/MP3/WMAのプレイは簡単！　CD/メディアを差し込むだけです。

CD/MP3/WMAをプレイするには…

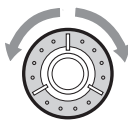
を押して操作パネルを開き、プレイするCD/メディアを差し込みます。差し込んだCD/メディアがプレイされます。

- プレイできるMP3/WMAメディアや、フォーマット、書き込み方法の注意などが「Help? MP3/WMA」（72ページ）に記載してあります。メディアを作成する前にご覧ください。
- 開いている操作パネルに無理な力をかけないでください。
- ディスクが入っているときは、「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）で“Display: A”を選択して、「Display: A表示選択」（30ページ）で時計表示を選択するとINインジケーターが点灯します。

メモリーされている放送局を選びます。

２秒以上押すと、受信中の放送局をボタンにメモリーします。

でソースキーモードにしてください。ソースキーモードの詳しい説明は「Help? Multi Key」（71ページ）を参照してください。

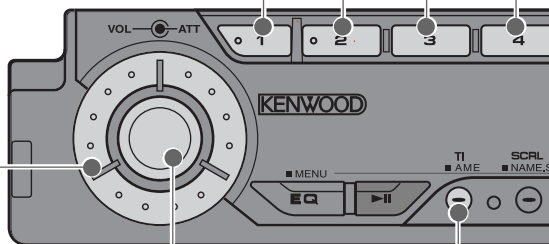
音量を下げます。

音量を上げます。

音量をすばやく小さくします。

もう一度押すと元の音量に戻ります。

交通情報を受信します。

もう一度押すと元に戻ります。

交通情報を受信中に音量を調節すると、次回から交通情報を受信したときは自動的にこの調節した音量になります。

AM放送のバンド（AM1/AM2）に切り替えます。

前のMP3/WMAフォルダを選びます。

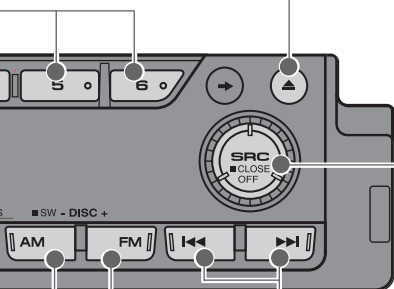
注 意

- 安全のため、周囲の音が聞こえる音量でお聴きください。
- 操作パネルを開いたときにシフトレバーなどに干渉する場合は、安全に注意してシフトレバーを動かしてください。

電源をオン/オフします。

車のエンジンキーのオン/オフに連動して本機の電源もオン/オフします。
１秒以上押すとフロントパネルが反転し、電源がオフになります。再びパネルを開く場合は、「パネルオープン」（41ページ）をご覧ください。

CD/MP3/WMAの
プレイとFM/AM放送を切り替えます。

ディスクが入っているときに押すと、FM/AM放送、CD/MP3/WMA、STANDBYに切り替わります。

プレイする曲を選びます。

受信する放送局を選びます。

受信状態の良い放送局を自動的に受信します。
チューニングモードの設定により、周波数を１ステップずつ変えたり、メモリーしている放送局を順に受信するようにもできます。（48ページ）

交通情報の周波数（1620KHz/1629KHz/ 522KHz）を切り替えます。

FM放送のバンド（FM1/FM2）に切り替えます。

次のMP3/WMAフォルダを選びます。

ソースセレクション

ソース選択

プレイするソースを切り替えます。

押すたびに次の順で切り替わります。

別売品のユニットが接続されているときには、次の順で切り替わります。

- AUXソース（“AUX”）には「メニュー設定」（48ページ）の“AUX IN”項目が“ON”に設定されているときに切り替わります。
- “AUX”表示は、「AUXネームセレクト」（27ページ）で替えることができます。
- MP3/WMAのメディアが挿入されているときは、CDモードを選択することにより、MP3/WMAファイルのプレイができます。
- 外部ディスクプレーヤーを選択時の表示例
  “CD Changer（1～2）”
  ：ディスクチェンジャー
  “HDD EXT” ：HDX-710（別売品）などの音楽ファイル（KSF）ソース

プレイするソースを選びます。

キーモードセレクション

マルチコントロールモード時の使いかた

ジョグダイヤルをマルチコントロールモードにして、各種機能の設定をします。

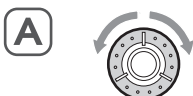
設定できる機能

- メニューの項目選択
- オーディオコントロールの設定値選択
- ディスプレイコントロールのディスプレイタイプ選択および文字情報選択
- ディスプレイコントロールのサイドグラフィックおよびグラフィック/スペアナ表示切り替え
- Name Setの文字選択
- フォルダセレクトのフォルダ選択

- jog インジケーターが点灯しているときに、上記の項目で、マルチコントロールモードの切り替えができます。
- jog インジケーター（×印）が点灯しているときは、上記の項目のジョグダイヤルの操作や音量調整ができません。

1 マルチコントロールモードにします

jog インジケーターが点滅します。

2 各機能の設定をします

設定したい項目を選んでジョグダイヤルを操作します。

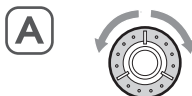
ボリューム調整をするときは…

ボリューム調整モードに戻ります。

マルチコントロールモードの操作例（ディスプレイタイプ選択）

1 ディスプレイコントロールモードに入ります

2 マルチコントロールモードにします

3 ディスプレイタイプを選択します

ジョグダイヤルをマルチコントロールモードにすると、各種機能の設定ができます。

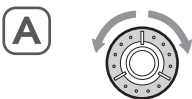
3 ディスプレイタイプ選択を終了します

ディスプレイ選択の機能についての詳細は「ディスプレイ選択」(28ページ) をご覧ください。

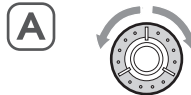
マルチコントロールモードの操作例(漢字の入力)

1 漢字入力モードにします

2 マルチコントロールモードにします

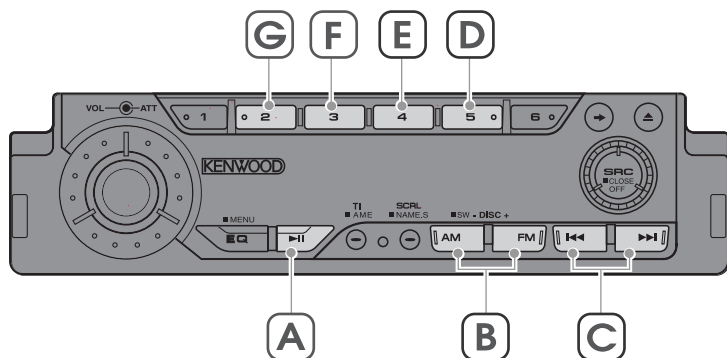
3 漢字の読みを選択します

4 漢字の読みを決定します

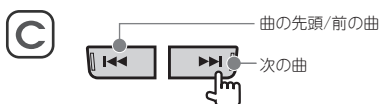
カーソルが読みの位置から漢字の位置に移動します。

5 入力する漢字を選ぶ

6 漢字を入力する

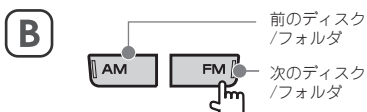
カーソルがある位置の漢字が入力され、漢字入力モードが終了します。
さらに漢字を入力する場合は、手順1～5を繰り返します。

ここではジョグダイヤルの使い方を中心に記載しています。実際に操作するときは「漢字の入力」(26ページ) をあわせてご覧ください。

CD/MP3/WMA /Changer / KSF モード

トラック／ファイルサーチ

プレイする曲を選びます。

ディスク／フォルダサーチ

(MP3/WMAメディア、ディスクチェンジャー、KSFのみ)

プレイするディスクやフォルダを選びます。

マニュアルサーチ

現在プレイ中の曲を早送り／早戻しします。

ボタンを押している間だけ、早送り／早戻しされます。

- MP3/WMAファイルをプレイ時は、マニュアルサーチ中に音は出ません。
- KSFをプレイ時は、マニュアルサーチできません。

ポーズ

現在プレイ中の曲を一時停止します。

A

もう一度押すとプレイを再開します。

スキャンプレイ

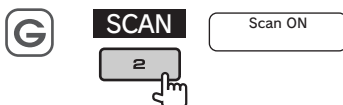
ディスクやフォルダ内の各曲の先頭部分を10秒間ずつプレイして曲を探します。

Before CHECK

<ソースキーモード>表示の状態で操作します。

SCAN | RDM | REP

<ソースキーモード>になっていない場合は、➡を押します。

1 スキャンプレイを開始します

スキャンプレイ中はSCANが反転表示されます。

2 聴きたい曲のところで…

その曲からプレイされます。

すべての曲がスキャンプレイされると、スキャンプレイは自動的に終了します。

CD/MP3/WMAや別売品のディスクチェンジャー、HDX-710の音楽ファイル（KSF）ソースでいろいろな機能を使ってプレイします。

基本的なCDの聴きかたはEZ Operation（12ページ）をご覧ください。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

トラック/ディスク/ファイル/フォルダリピートプレイ

現在聴いている曲またはディスク/フォルダを繰り返しプレイします。

押すたびに、次のようにオン/オフします。
リピートプレイ中はREPが反転表示されます。

ランダムプレイ

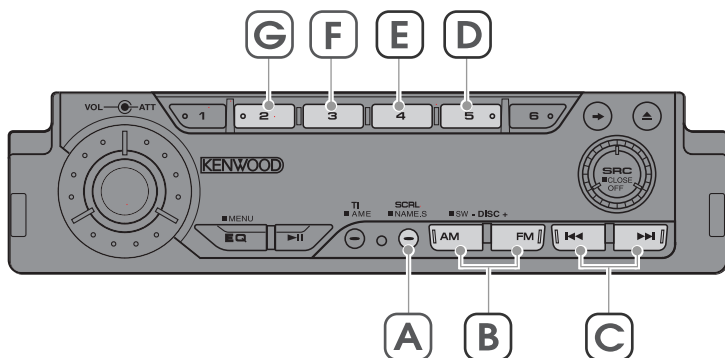
現在のディスクやフォルダ内の曲をランダムな順でプレイします。

押すたびに、ランダムプレイがオン/オフされます。
ランダムプレイ中はRDMが反転表示されます。

マガジンランダムプレイ

(ディスクチェンジャーのみ)

ディスクチェンジャーにセットされているディスクの中からランダムな順でプレイします。

押すたびに、マガジンランダムプレイがオン/オフされます。
マガジンランダムプレイ中はM.RDMが反転表示されます。

テキストスクロール

ディスプレイに表示されるテキストを、スクロール設定が“Manual”のときにテキストをスクロールさせせます。

1 テキスト表示にします

「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）および「Display: A表示選択」（30ページ）または「Display: B/C表示選択」（34ページ）を参照して、テキスト表示にします。

2 スクロール表示します

表示中のテキストが１回スクロールします。

- スクロール可能なテキスト表示については、「Help? Word」の「SCL」（77ページ）を参照してください。
- スクロール設定を“Auto”にしているときに上記の操作を行うと、テキストが最初の文字からスクロールを開始します。スクロール設定の方法は、「メニュー設定」（48ページ）を参照してください。

フォルダセレクト(MP3/WMAメディアのみ)

聴きたいMP3/WMAの曲が入っているフォルダをすばやく選択します。

Before CHECK

<ソースキーモード>表示の状態で操作します。

SCAN | RDM | REP | FSEL

<ソースキーモード>なっていない場合は、➔を押します。

1 フォルダセレクトモードにします

ディスプレイに以下の表示がされます。

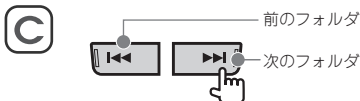
フォルダナンバー表示
現在選択されているフォルダが属するフォルダ内での番号を表示します。

フォルダネーム表示
フォルダネームを表示します。

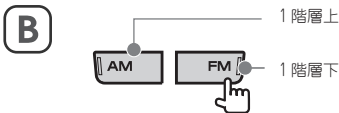
Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

2 フォルダを選びます

同階層内にあるフォルダ間を移動します

C

押すたびに、同階層内で次のフォルダ／前のフォルダへと移動します。

フォルダの階層を選択します

B

押すたびに、1階層上/1階層下へと移動します。

第1階層へ戻ります（Root Jump）

E

現在聴いているメディアの最上階層のフォルダに戻ります。

フォルダセレクト時のフォルダの移動のしかたは、フォルダサーチとは異なります。くわしくは「Help? MP3/WMA」(72ページ)を参照してください。

フォルダネームをスクロールするときは…

A

3 聴きたい曲が入っているフォルダで…

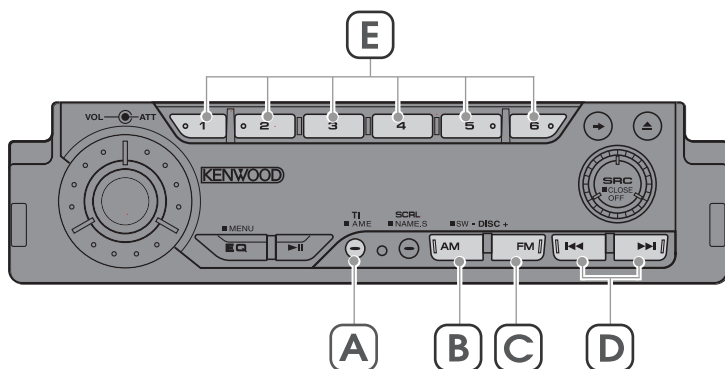
G

フォルダセレクトモードが終了し、そのフォルダ内の最初のMP3/WMAファイルがプレイされます。

フォルダセレクトモードを終了して、選択したフォルダにMP3/WMAファイルがないときは、プレイ順で一番近いファイルがプレイされます。

フォルダセレクトを中止するときは…

F

TUNER モード

バンド切り替え

FM1とFM2に切り替えます。

AM1とAM2に切り替えます。

チューニング

受信する放送局を選びます。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 放送局を選びます

チューニングモードが"Auto1"のとき
受信状態の良い放送局を自動的に選びます。

チューニングモードが"Auto2"のとき
メモリーされている放送局を番号順に受信します。（メモリーの方法は後記を参照してください）

チューニングモードが"Manual"のとき
押すたびに、周波数が1ステップずつ変わります。

- チューニングモードは「メニュー設定」（48ページ）の"Seek"項目で選択できます。
- 「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）で"Display: A"を選択して「Display: A表示選択」（30ページ）で"Clock"を表示しているときに、FMステレオ放送を受信すると**ST**インジケーターが点灯します。

オートメモリー

受信状態の良い放送局を自動的に選んでメモリーします。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 オートメモリーします

周波数表示が次々に変わるまで押し続けます。

6局メモリーするか、周波数を1周すると自動的にオートメモリーは終了します。

FM/AM放送を受信します。
また、各バンドごとに6局までの放送局をメモリーしておくこともできます。

基本的なFM/AM放送の聴きかたはEZ Operation（12ページ）をご覧ください。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

マニュアルメモリー

受信中の放送局をメモリーします。

Before CHECK

<ソースキーモード>表示の状態で操作します。

<ソースキーモード>になっていない場合は、➔を押します。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 放送局を選びます

3 メモリーするボタン（1～6のいずれか）を選びます

ボタンナンバーが1回点滅表示するまで押し続けます。

プリセットチューニング

メモリーボタン（1～6）にメモリーされている放送局を受信します。

Before CHECK

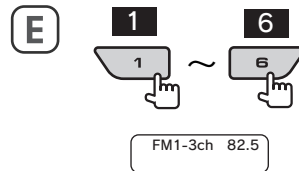
<ソースキーモード>表示の状態で操作します。

1	2	3	4	5	6

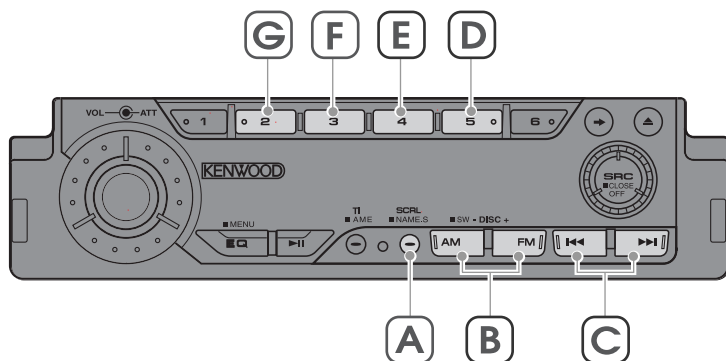
<ソースキーモード>になっていない場合は、➔を押します。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 メモリーボタン（1～6のいずれか）を選びます

押したボタンの番号がメモリーナンバーに表示され、メモリーされている周波数が呼び出されます。

Name Set

Functional Operation

Name Set

DNPS（ディスクネームプリセット）/ SNPS（ステーションネームプリセット）

CDやFM/AM放送局に名前を付けます。

1 名前を付けるCD/放送局を選びます

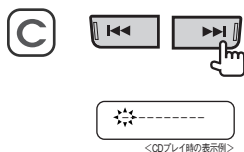
- MDにDNPSを行うことはできません。
- 交通情報モード中に受信している放送局にも同様の操作で名前を付けることができます。

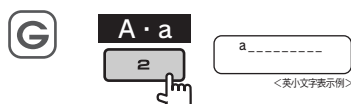
2 DNPS/SNPSを開始します

NAME SET

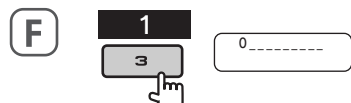
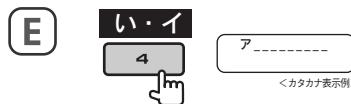
“NAME SET”と表示されるまで押し続けます。

3 文字を入力する位置にカーソルを移動します

＜CDプレイ時の表示例＞

4 文字の種類を選びます

英大文字/英小文字を選択するときは…

＜英小文字表示例＞

押すたびに、英大文字と英小文字とを切り替えます。

数字/記号を選択するときは…

ひらがな/カタカナを選択するときは…

＜カタカナ表示例＞

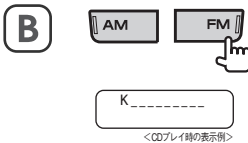
押すたびに、ひらがなとカタカナとを切り替えます。

漢字を選択するときは…

漢字の入力方法については、「漢字の入力」（26ページ）をご覧ください。

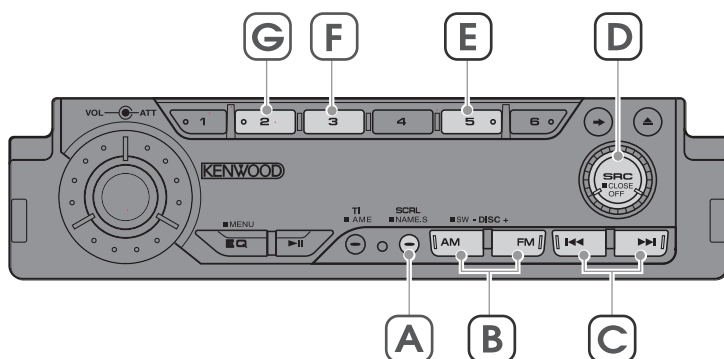
FM/AM放送局や本機内蔵のCDプレーヤーと別売品のCDチェンジャー/CDプレーヤーにセットされているCDに名前を付けて表示させることができます。
また、AUXモードのときに表示される名前を設定できます。

A

SCRL
■ NAME.S

- 10秒間以上、なにも操作しないとその時点で名前が確定されます。
- 名前は10文字まで登録できます。
- CDはトラック数（曲数）と総録音時間で識別されます。このため、これらが同じCDの場合には識別できません。
- バッテリーから外すとDNPS/SNPSは消去されます。
- 登録した名前を変更するには、変更したいCDや放送局の名前を表示させたあと、同様の操作で変更できます。
- DNPSは本機内蔵のCDプレーヤーと別売品のCDチェンジャーを合わせて30枚まで登録できます。
- SNPSで登録できる局数は、FM放送局が32局、AM放送局が16局です。
- 登録したディスクの名前を選択して、ディスクをプレイすることもできます。詳しくは「SBF」（64ページ）をご覧ください。

Name Set

Functional Operation

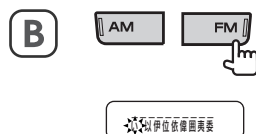
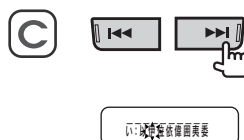
Name Set

漢字の入力

ディスクネーム/ステーションネームに漢字を入力して表示させることができます。

1 DNPS/SNPSを開始します

「DNPS（ディスクネームプリセット）/SNPS（ステーションネームプリセット）」(24ページ）の手順１～３を行います。

2 漢字入力モードにします

3 漢字の読みを選択します

4 入力する漢字を選ぶ

カーソルが読みの位置から漢字の位置に移動します。

漢字列を変えるには…

カーソルが漢字の位置にあるときに押すと、漢字列が変わります。

5 漢字を入力する

カーソルがある位置の漢字が入力され、漢字入力モードが終了します。
さらに漢字を入力する場合は、手順２～5を繰り返します。

漢字入力を中止するときは…

AUXネームセレクト

AUXモードに切り替えたときの表示を設定します。

1 AUXモードにします

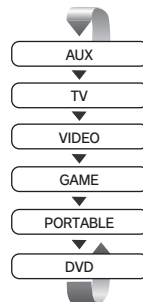
AUX

2 ネームセットモードにします

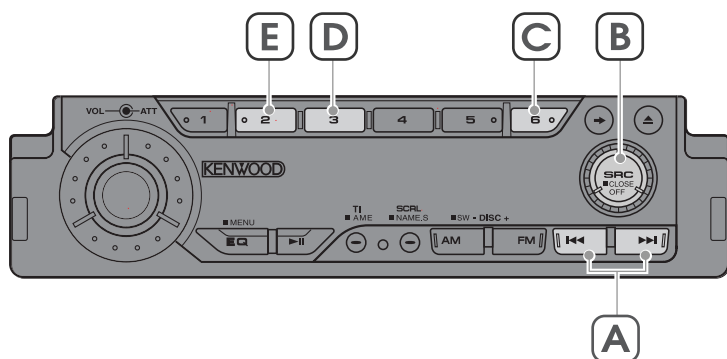
NAME SET

“NAME SET”と表示されるまで押し続けます。

3 AUXネームを選択します

以下のように切り替わります。

4 ネームセットモードを終了します

- 10秒間以上何も操作しないと、その時点での名前が選択されます。
- バッテリーから本機を外すと、AUXネームは“AUX”に戻ります。
- CA-C1AXには“NAME SET”ができません。

ディスプレイコントロール

ディスプレイタイプ選択

ディスプレイの表示タイプを切り替えます。

Before CHECK

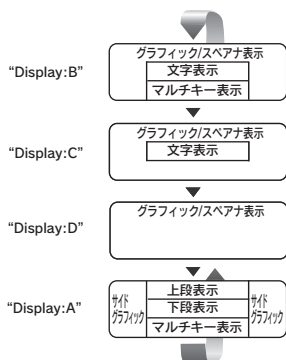
<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

AUD	DISP	PNL	2-ZN

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➜を押します。

1 ディスプレイコントロールモードに入ります

2 ディスプレイタイプを選択します

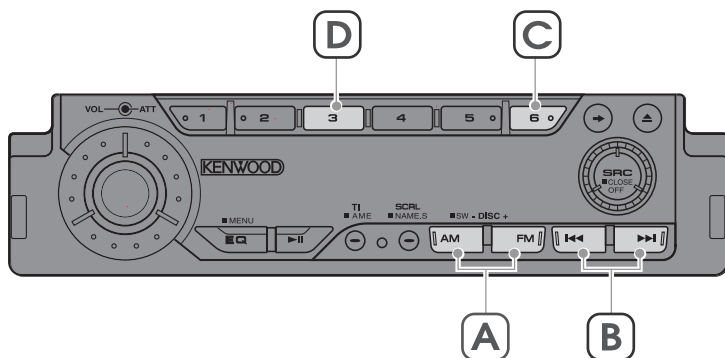
押すたびに次の順で切り替わります。

"Display: C"または"Display: D"を選択するとマルチキー表示がされなくなります。マルチキーシステムを使用している機能を行う場合は1～6ボタンのいずれか、または➜ボタンを押してください。マルチキー表示が約5秒間表示されます。

3 ディスプレイタイプ選択を終了します

- "Display: A"選択時の上段表示および下段表示の選択方法は「Display: A表示選択」(30ページ)をご覧ください。
- "Display: A"選択時のサイドグラフィック表示の切り替え方は「サイドグラフィック表示切り替え」(33ページ)をご覧ください。
- "Display: B"、Display: C"、または"Display: D"選択時のグラフィック/スペアナ表示の選択方法は「グラフィック/スペアナ表示切り替え」(36ページ)をご覧ください。
- "Display:A"を選択時に「デュアルゾーン」(45ページ)を"ON"に設定するとスペアナが表示されません。
- "Display:B"、Display: C"または"Display: D"でスペアナ表示を選択時に「デュアルゾーン」(45ページ)を"ON"に設定すると壁紙に切り替わります。

ディスプレイの表示タイプや表示する情報の設定をします。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

ディスプレイコントロール

Display: A表示選択

ディスプレイタイプがDisplay: Aのとき文字情報を切り替えます。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、を押します。

1　ディスプレイコントロールモードに入ります

2　文字表示切り替えを選択します

- 「ディスプレイタイプ選択」(28ページ)で“Display: A”を選択しておいてください。
- ジョグダイヤルで文字情報を選択する場合は [3] で上段か下段を選択します。

3　文字情報を選択します

上段表示を切り替えるには…

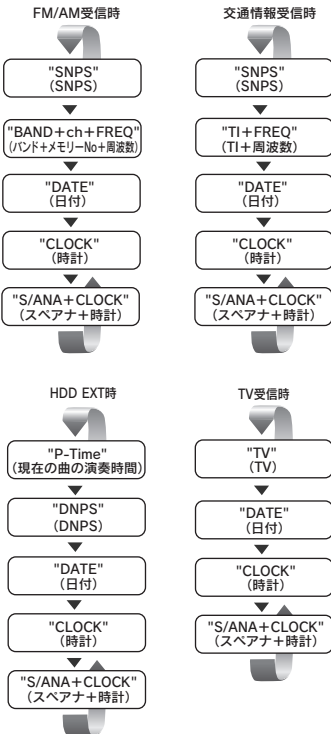
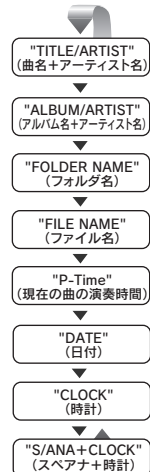
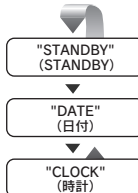
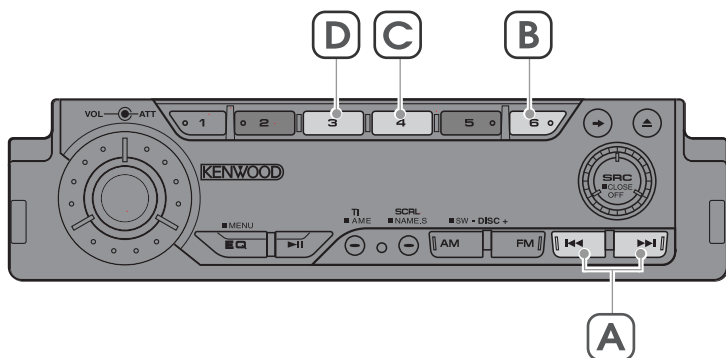
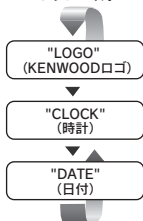
押すたびに図の順(31ページ)で切り替わります。

下段表示を切り替えるには…

押すたびに図の順(32ページ)で切り替わります。

- DNPS:ディスクネームプリセット(24ページ)
  SNPS:ステーションネームプリセット(24ページ)
  なお、CDプレイ時のディスクタイトルはディスクテキスト、トラックタイトルはトラックテキストが表示されます。
- SNPSが登録されていないと、周波数が表示されます。
- ディスク/トラックタイトル、曲名、アルバム名、ファイル名、フォルダ名が記録されていないディスクを再生中に上記の表示に切り替えると、上段には演奏時間、下段にはロゴが表示されます。
- WMAファイルをプレイ中は、アルバム名の表示はできません。
- 上段表示と下段表示に同じ情報を表示することはできません。
- 「デュアルゾーン」(45ページ)を“ON”に設定すると、スペアナは表示されません。
- 時計表示を選択中は、インジケーターが点灯します。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

4 文字表示切り替えを終了します

ディスプレイコントロール

下段表示切り替え

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

サイドグラフィック表示切り替え

ディスプレイタイプがDisplay:Aのときに表示するサイドグラフィック表示を選択します。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➜を押します。

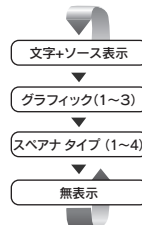
1 ディスプレイコントロールモードに入ります

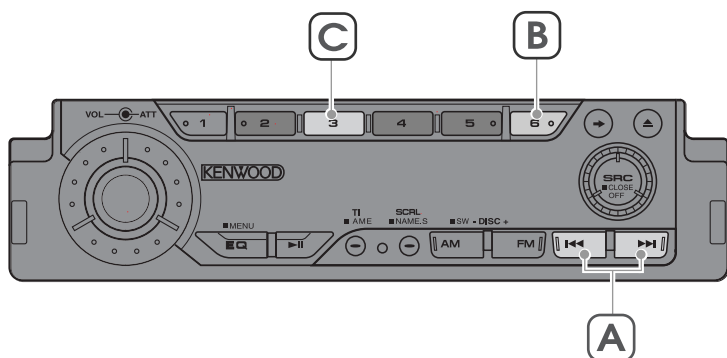
2 サイドグラフィック表示切り替えを選択します

SIDE

「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）で“Display: A”を選択しておいてください。

3 サイドグラフィックを切り替えます

押すたびに次の順で切り替わります。

- STANDBYモード中はスペアナタイプには切り替わりません。
- スペアナを表示中に「デュアルゾーン」（45ページ）を“ON”に設定すると、無表示に切り替わります。

4 サイドグラフィック表示切り替えを終了します

ディスプレイコントロール

Display: B/C表示選択

ディスプレイタイプがDisplay:Bまたは Display:Cのとき文字情報を切り替えます。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➔を押します。

1 ディスプレイコントロールモードに入ります

2 文字表示切り替えを選択します

「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）で“Display: B”または“Display: C”を選択しておいてください。

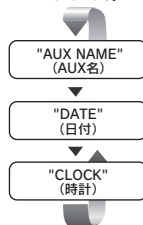
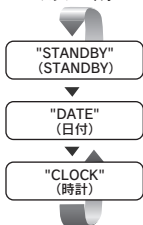
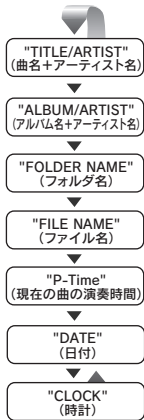
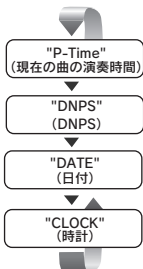
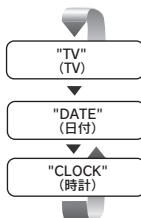
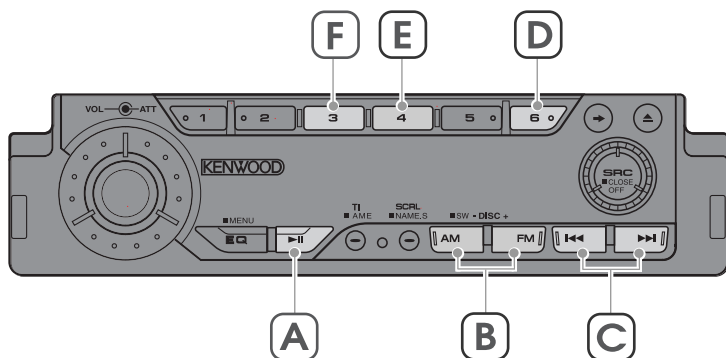
3 文字情報を選択します

押すたびに次の順で切り替わります。

CD/チェンジャープレイ時
"DISC-TITLE"（ディスクタイトル）
"TRACK-TITLE"（トラックタイトル）
"P-Time"（現在の曲の演奏時間）
"DNPS"（DNPS）
"DATE"（日付）
"CLOCK"（時計）
MP3/WMAプレイ時
"TITLE/ARTIST"（曲名+アーティスト名）
"ALBUM/ARTIST"（アルバム名+アーティスト名）
"FOLDER NAME"（フォルダ名）
"FILE NAME"（ファイル名）
"P-Time"（現在の曲の演奏時間）
"DATE"（日付）
"CLOCK"（時計）
HDD EXT時
"P-Time"（現在の曲の演奏時間）
"DNPS"（DNPS）
"DATE"（日付）
"CLOCK"（時計）
TV受信時
"TV"（TV）
"DATE"（日付）
"CLOCK"（時計）

4 文字表示切り替えを終了します

B

6

ディスプレイコントロール

グラフィック/スペアナ表示切り替え

ディスプレイタイプがDisplay:B、Display:CまたはDisplay:Dのときに表示するグラフィック/スペクトラムアナライザー表示を選択します。

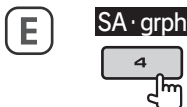
Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

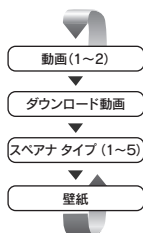
<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➜を押します。

1 ディスプレイコントロールモードに入ります

2 グラフィック/スペアナ表示切り替えを選択します

SA・grph

「ディスプレイタイプ選択」（28ページ）で“Display: B”、“Display: C”または“Display: D”を選択しておいてください。

3 グラフィック/スペアナを切り替えます

押すたびに次の順で切り替わります。

- “ダウンロード動画”は画像が収録されている場合に表示されます。収録の方法は「画像のダウンロード」（54ページ）を参照してください。
- “壁紙”の選択の方法は「壁紙の選択」（37ページ）を参照してください。
- スペアナを表示中に「デュアルゾーン」（45ページ）を“ON”に設定すると、壁紙に切り替わります。

4 グラフィック/スペアナ表示切り替えを終了します

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

壁紙の選択

Display: BまたはDisplay: C、Display: Dの壁紙を選択します。

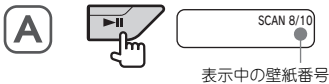
Before CHECK
<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。
AUD DISP PNL 2-ZN
<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、→を押します。

1 壁紙を表示します

「グラフィック/スペアナ表示切り替え」（36ページ）の手順1～3を参照して“壁紙”を表示します。

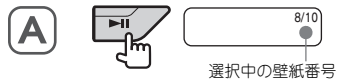
2 壁紙を切り替えます

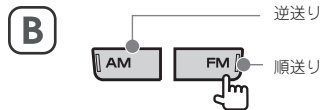
壁紙を次々に表示して選択する

1. 壁紙スキャンをオンにします

押すたびに壁紙スキャンがオン／オフします。壁紙スキャンがオンのときは“SCAN”と表示されます。
壁紙が次々に切り替わります。

2. 表示したい壁紙のところで…

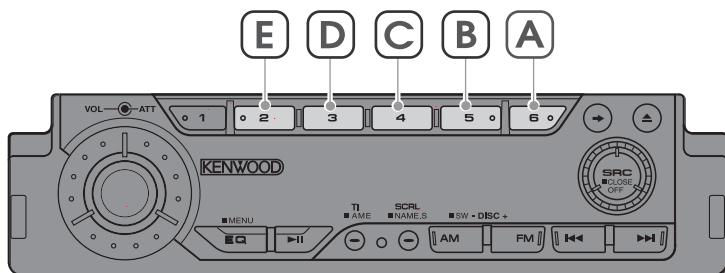
壁紙を手動で選択する

1. 壁紙スキャンをオフにします

押すたびに壁紙スキャンがオン／オフします。壁紙スキャンがオフのときは“SCAN”表示が消えます。

2. 壁紙を選択します

押すたびに壁紙が切り替わります。

- 本機には5種類の壁紙があらかじめ収録されています。
- 「画像のダウンロード」（54ページ）でダウンロードした壁紙は、あらかじめ登録されている5種類の壁紙の次に登録されます。

3 壁紙の選択を終了します

ディスプレイコントロール

操作パネル角度調節

操作パネルの角度を調整します。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、を押します。

1 パネルコントロールモードに入ります

PNL

ANGLE ADJUST MODE

2 パネルの角度を調整します

操作パネルを下方向に向けます

ANG+

押すたびに、操作パネルが下方向に移動します。

操作パネルを上方向に向けます

ANG-

押すたびに、操作パネルが上方向に移動します。

- 操作パネルの角度を調整中は、音声は出力されません。
- エスカッション（パネルの枠）を使用しているときは、パネルの調節角度を下方向に 2 段階以上移動すると、本機のエスカッションに干渉することがあります。「メニュー設定」（48ページ）の“Panel CONT”項目を“1”に設定すると干渉を防止することができます。

3 パネルの角度調整を終了します

パネルの調節角度によっては、イジェクト動作などでシフトレバーなどに干渉することがあります。安全に注意して、パネルの角度を調整するか、「メニュー設定」（48ページ）の“EJCT ANG”項目を“LVL”に変更してください。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

表示パネル位置調節

表示パネルの位置を調整します。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、を押します。

1 パネルコントロールモードに入ります

ANGLE ADJUST MODE

2 パネルの位置を調整します

表示パネルを手前方向に移動します

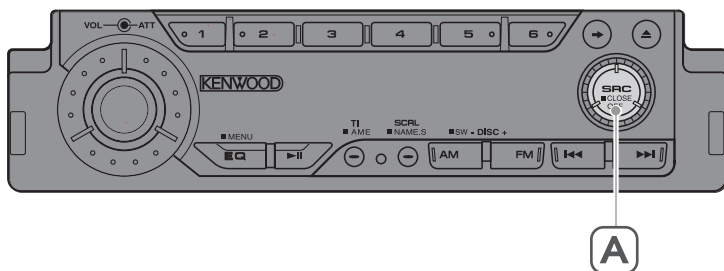
押すたびに、表示パネルが手前方向に移動します。

表示パネルを奥方向に移動します

押すたびに、表示パネルが奥方向に移動します。

- 表示パネルの位置を調整中は、音声は出力されません。
- エスカッション（パネルの枠）を使用しているときは、表示パネルの位置を一番奥に移動すると、本機のエスカッションに干渉することがあります。「メニュー設定」（48ページ）の“Panel CONT”項目を“1”に設定すると干渉を防止することができます。

3 パネルの位置調整を終了します

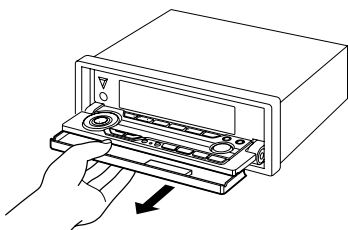
ディスプレイコントロール

フロントパネル取り外し

フロントパネルを取り外します。

1　操作パネルを水平の位置にします

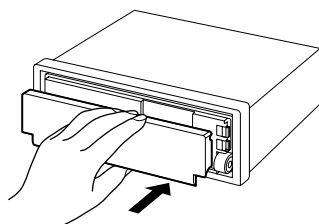
電源またはACCをオフにします。

操作パネルを水平に保つ時間は「メニュー設定」（48ページ）の"Off Wait"項目で設定ができます。

2　フロントパネルを取り外します

手前に引きます。

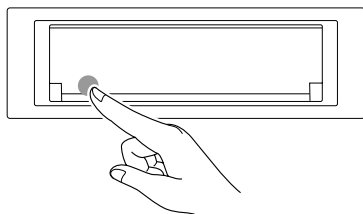
- 「メニュー設定」（48ページ）の"Off Wait"項目で設定されている時間がたつとパネルが裏返り電源がオフになります。
- 「メニュー設定」（48ページ）の"DSI"項目が"ON"になっていると、盗難防止用警告ランプが点滅します。
- フロントパネルを取り外すときは、「メニュー設定」（48ページ）の"オートクローズ"項目を"ON"に設定してください。

フロントパネル取り付け

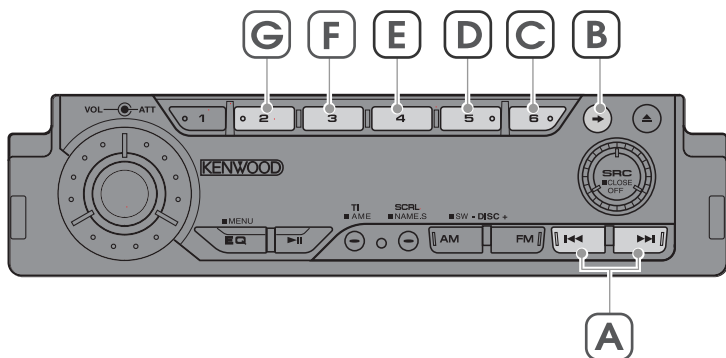
フロントパネルを取り付けます。

フロントパネルを本体に合わせてロックするまで押します。

フロントパネルを取り外すと、盗難防止警告ランプが点滅し盗難防止の手助けとなります。

パネルオープン

本機の電源をオフにして操作パネルを閉じたときに、再び操作パネルを開けることができます。

フロントパネル左下を押します。
操作パネルが開き、電源がオンになります。

ACCがオフのときには操作パネルが開きません。

オーディオコントロール

オーディオコントロール

音量バランスなどを設定します。

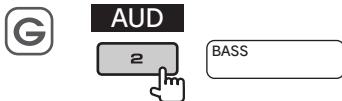
Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

AUD | DISP | PNL | 2-ZN

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➔を押します。

1 オーディオコントロールモードにします

AUD

BASS

2 調整する項目のあるページを表示させます

押すたびにオーディオコントロールページが切り替わります。
下記の表を参照して、調整するオーディオ項目があるオーディオコントロールページを選択します。

ボタン ＼ オーディオコントロールページ	1ページ	2ページ	3ページ
2	BASS 低音の音量レベル	SW サブウーハー出力	VOFF ソース間のレベル差
3	MID 中低音の音量レベル	HPF 低音カット	N-VOL ナビ音声ガイド時の音量
4	TRE 高音の音量レベル	LPF ノンフェダー高音カット	—
5	WOW ワウ	BL/F 左右/前後の音量レベル	—

3 設定項目を選択します

押すたびに手順 4 の表の設定項目が切り替わります。

4 設定値を選択します

設定できる項目と値は次のとおりです。

BASS 調整項目

設定項目	設定値
BASS F*（低音中心周波数）	60/70/80/100または150(Hz)
BASS L（低音）	−8〜+8
BASS Q*（低音クォリティーファクター）	1.00/1.25/1.50/2.00
BASS Ext*（低音中心周波数伸張）	OFF/ON

MID 調整項目

設定項目	設定値
MIDDLE F*（中低音中心周波数）	0.5/1.0/1.5/2.0(kHz)
MIDDLE L（中低音）	−8〜+8
MIDDLE Q*（中低音クォリティーファクター）	1.0/2.0

TRE 調整項目

設定項目	設定値
TREBLE F*（高音中心周波数）	10.0/12.5/15.0/17.5(kHz)
TREBLE L（高音）	−8〜+8

音量バランスの調整などをします。
また、ジャンル別にメモリーされているオーディオ設定を呼び出します。

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

WOW 調整項目

設定項目	設定値
SRS WOW*（音質効果設定）	LOW/HIGH/OFF
FOCUS*（音像の上下の設定）	LOW/HIGH/OFF
TruBass（低音部の強調設定）	ON/OFF
SRS 3D（音場の立体設定）	ON/OFF

SW 調整項目

設定項目	設定値
SW LEVEL（サブウーハープリアウト出力レベル）	−15〜+15
PHASE（サブウーハー出力位相）	Normal/Reverse

HPF 調整項目

設定項目	設定値
X'OVER Front*（フロント低音カット）	Through/40/60/80/100/120/150/180/220(Hz)
X'OVER Rear*（リア低音カット）	Through/40/60/80/100/120/150/180/220(Hz)

LPF 調整項目

設定項目	設定値
X'OVER Sub Woofer*（サブウーファー高音カット）	50/80/120/Through(Hz)

BL/F 調整項目

設定項目	設定値
BL/F BL（バランス）（左右の音量調整）	L15〜R15
BL/F F（フェダー）（前後の音量調整）	R15〜F15

VOFF 調整項目

設定項目	設定値
VOL OFFSET*（ソース間のレベル差）	−8〜0

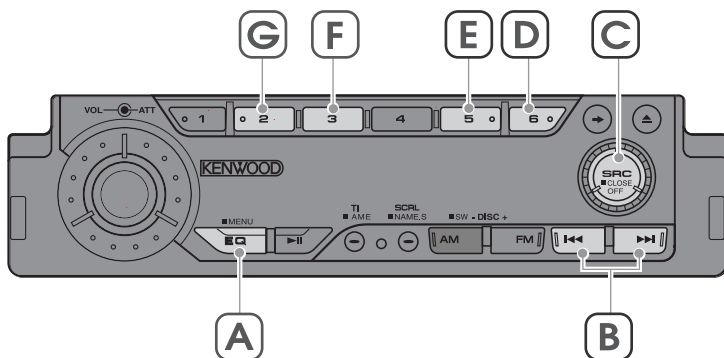
N-VOL 調整項目

設定項目	設定値
NAV VOL*（ナビ音声ガイド時の音量）	0〜25

- "BASS"、"MID"、"TRE"、および "VOL OFFSET" は各ソースごとに設定できます。
- *マークが付いた項目の詳しい機能については、「Help? Word」（74ページ）をご覧ください。
- "SW LEVEL"、"X'OVER Sub Woofer"、および "NF PHASE" は「サブウーハー出力設定」（46ページ）が "ON" のときに設定できます。
- [WOW]調整項目は「dBイコライザー」（44ページ）で "SRS WOW" または "User Preset" を選択中にのみ設定できます。
- [WOW]調整項目で設定した値は、フロントスピーカーの音声に効果をつけられ、リアスピーカーの音声はフラットになります。
- [SW]、[LPF]、[WOW]調整項目は「デュアルゾーン」（45ページ）が "ON" 中は設定できません。
- FM/AM放送を選択中は[WOW]調整項目の "SRS 3D" 項目は選択できません。
- "NAV VOL" は、"Guide" 項目を "INT" に設定しているときに選択できます。
- BASS F（低音中心周波数）の設定可能な周波数は、BASS Q（低音クオリティファクター）の設定値により以下のように変わります。

BASS Q 設定値	BASS F設定可能値
1.00/1.25/1.50	60/70/80/100(Hz)
2.00	60/70/80/150(Hz)

5 オーディオコントロールモードを終了します

オーディオコントロール

dBイコライザー

ジャンル別に設定された音質を呼び出して、その効果の強弱を設定します。

1 設定するソースにします

2 dBイコライザーモードにします

3 dBイコライザーを選択します

押すたびに次の順でメモリーされている音質に切り替わります。

SRS WOW	SRSワウ
Natural	ナチュラル
USER	ユーザープリセット
ROCK	ロック
VOCAL	ボーカル
EASY	イージー
DANCE	ダンス
JAZZ	ジャズ

- "USER"は「オーディオコントロール」（42ページ）で設定した音質を呼び出します。
- FM/AM放送を選択中は"SRS 3D"効果はありません。
- "SRS WOW"は「デュアルゾーン」（45ページ）を"ON"に設定しているときは選択できません。
- "SRS WOW"を選択中は、ナビ音声ガイドはリアスピーカーから出力されません。
- "SRS WOW"は、フロントスピーカーから出力される音声にのみ効果をつけられます。
- 「dBイコライザー」はSTANDBY以外の各ソースごとに設定できます。
- それぞれの音質の特徴については「Help ?Word」(74ページ)をご覧ください。

4 効果の強弱を選択します

押すたびに、"HIGH"と"LOW"とに切り替わります。

"Natural"、"USER"または"SRS WOW"を選択中は切り替えられません。

5 dBイコライザー選択モードを終了します

1秒以上押し続けます。
または、10秒以上なにも操作しないでおきます。

Functional Operation

オーディオコントロール

Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

デュアルゾーン

フロントチャンネルおよびリアチャンネルから出力するソース音声を設定します。

Before CHECK

<ディスプレイキーモード>表示の状態で操作します。

AUD | DISP | PNL | 2-ZN

<ディスプレイキーモード>になっていない場合は、➜を押します。

1 設定するソースにします

AUX
<内蔵AUXソース選択時>

“AUX”、“CD Changer” または “HDD EXT” を選択します。

2 デュアルゾーンモードに入ります

2-ZN
3 今のソースを出力するスピーカーを選択します

F↔R
押すたびに手順 1 で選んだソースの音声を出力するスピーカーが “Front” と “Rear” に切り替わります。

出力するスピーカーの選択は、デュアルゾーンが “OFF” に設定されているときに選択ができます。

4 デュアルゾーンをオンにします

ON
押すたびに “ON” と “OFF” が切り替わります。

- 以下の設定のとき、オン・オフの切り替えはできません。
  - [WOW]調整項目（42ページ）：“OFF” 以外
  - 「dB イコライザー」（44ページ）：“SRS WOW”
  - “Guide”（48ページ）：“INT”
- f-LZ77（別売品）を接続して、TVソースを選択しているときに、デュアルゾーンを “ON” に設定してもTVソースの音は出力されません。

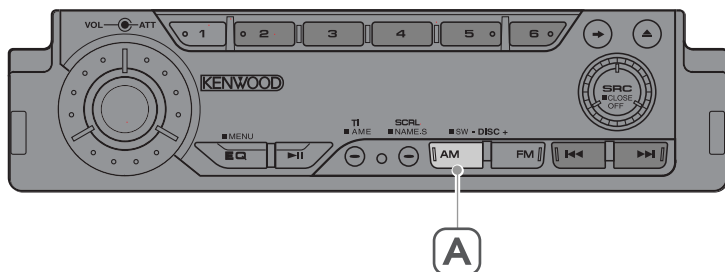
5 デュアルゾーンモードを終了します

デュアルゾーンの詳しい機能については、「Help? Word」（65ページ）をご覧ください。

6 本機の内蔵ソースにします

TUNER

“TUNER”、“Compact Disc” または “AUX” を選択します。

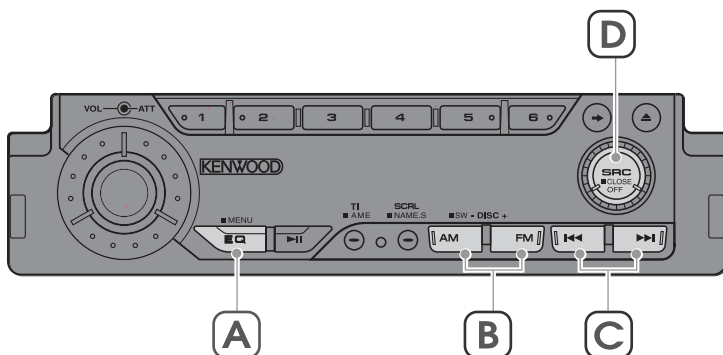
オーディオコントロール

サブウーファー出力設定

サブウーハー出力のオン/オフを切り替えます。

SUB WOOFER
ON

1秒以上押すたびに、サブウーファー出力がオン/オフします。

「デュアルゾーン」(45ページ)を“ON”に設定しているときは使用できません。

Menu

メニュー設定

操作時のビープ音などの各種の機能を設定します。

1 設定する項目があるソースにします

2 メニューモードにします

"MENU"と表示されるまで押し続けます。

3 設定する項目を選択します

4 値を選択します

設定できる項目と値は次のとおりです。

全ソース中

設定項目	設定値
Beep* （ビープ音）	**ON**/OFF
時計調整モード （時計調整）	調整の方法は52ページをご覧ください。
日付設定モード （日付設定）	設定の方法は53ページをご覧ください。
DSI* （盗難防止用警告ランプ設定）	**ON**/OFF
Button （キーイルミネーション設定）	**Green**/Red
▼Blink* （トライアングルの点灯設定）	**ON**/OFF
Dimmer* （車両ライトがオン時の減光設定）	**ON**/OFF
Off Wait* （パネルの取り外し時間設定）	0s/**3s**/5s/10s/15s/20s/25s
dB PRO* （オーディオコントロールのFRQやQ、EXT項目の表示設定）	**ON**/OFF
AMP BAS* （外部アンプ低音出力コントロール）	**Flat**/+ 6 /+12 /+18
AMP FRQ* （外部アンプ低音周波数コントロール）	**NML**/Low
SCL* （テキスト表示のスクロール設定）	**Auto**/Manual
AUX IN* （内蔵AUXソースの切り替え設定）	ON/**OFF**
Rotary* （ボリュームキーの切り替え設定）	**ON**/OFF

（太字：初期設定値）

本機のいろいろな機能を設定します。

TUNERモード中

設定項目	設定値
Seek*（チューニングモード設定）	**Auto1**/Auto2/Manual
MONO*（モノラル受信設定）	ON/**OFF**

（太字：初期設定値）

STANDBYモード中

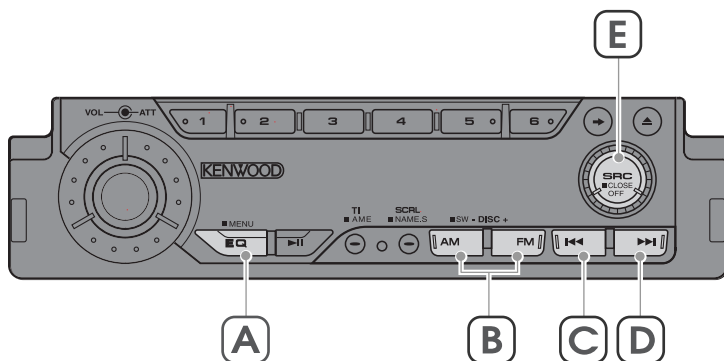
設定項目	設定値
Security*（セキュリティーコードの登録設定）	設定の方法は50ページをご覧ください。
EJECT ANG*（CDイジェクト時のパネル動作設定）	**SLP**/LVL
Panel CONT*（パネル動作設定）	1/**2**
オートクローズ*（パワーオフ時のパネル動作設定）	**ON**/OFF
AMP Mute*（内蔵アンプの出力停止設定）	ON/**OFF**
漢字優先*（テキストの漢字の優先表示）	**ON**/OFF
Guide*（ナビ音声ガイド時の割り込み/ミュート設定）	**OFF**/ATT/INT
CD READ*（CD Read設定）	**1**/ 2
表示データのダウンロード*（画像のダウンロード）	ダウンロードの方法は54ページをご覧ください。

（太字：初期設定値）

LXアンプ接続時

設定項目	設定値
AMP Control（LXアンプコントロールの設定）	設定の方法は56ページをご覧ください。

- *マークが付いた項目の詳しい機能については、「Help?Word」（74ページ）をご覧ください。
- “AMP BAS”と“AMP FRQ”で本機からコントロール可能なアンプ機種についてはカタログをご覧ください。
- 「デュアルゾーン」が“ON”のときは“Guide”項目の“INT”は設定できません。
- “AUX IN”項目はAUXソースを選択中や「デュアルゾーン」（45ページ）が“ON”に設定されているときは選択できません。
- STANDBYモード中は、ナビ音声ガイドの割り込みはできません。
- “Guide”項目を“INT”に設定して、ナビ音声ガイドが割り込んだときに、ナビゲーションシステムでKSFを再生していると、ナビゲーションによってはKSFの音声がナビ音声ガイドと一緒に聴こえる場合があります。

5 メニューモードを終了します

セキュリティコード

暗証番号を登録することにより盗難を抑制します。

設定したセキュリティコードは変更・削除はできません。また、機能の解除もできません。
コードは忘れないようにメモを取るなどしてください。

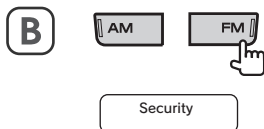
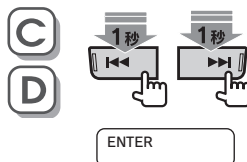
1 STANDBYモードにします

STANDBY

2 メニューモードにします

“MENU”と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコード項目を選択します

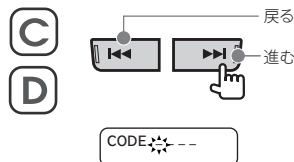
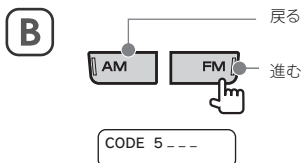
Security

4 セキュリティコード入力を開始します

ENTER

⏮ または ⏭ を“ENTER”と表示されるまで押し続けます。

5 コード入力桁を選択します

CODE _ _ _ _

6 コードを選択します

CODE 5 _ _ _

7 セキュリティコードを完成させます

手順 5 ～ 6 を繰り返して 4 桁のセキュリティコードを完成させます。

8 セキュリティコードを登録します

RE-ENTER

“RE-ENTER”と表示されるまで押し続けます。

9 セキュリティコードを再入力します

確認のためセキュリティコードを手順5～7の方法で再度入力します。

手順5～7と違うコードを入力すると、手順5の1回目のセキュリティコードの入力に戻ります。

10 セキュリティコードを再度登録します

APPROVED

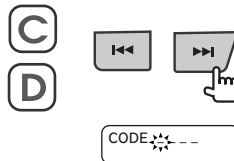
“APPROVED”と表示されるまで押し続けます。

11 セキュリティコードの登録を終了します

メニューモードを終了するときは、もう一度押します。
セキュリティコードの登録が完了後に、リセットボタンを押したり、本機をバッテリーから外すと、登録したセキュリティコードの入力が必要になります。詳しくは以下をご覧ください。

リセットボタンを押したり、本機をバッテリーから外してから最初に使うときは…

1 コード入力桁を選択します

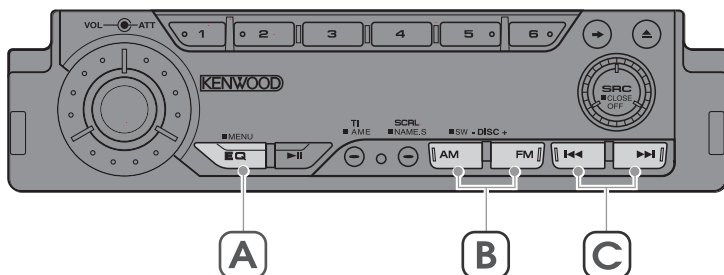
CODE -- -- --

セキュリティコードを手順5～7の方法で入力します。

2 セキュリティコードを確定します

APPROVED

“APPROVED”と表示されるまで押し続けます。
本機が使用可能となります。

セキュリティコードを登録したときと違うコードで入力すると電源が自動的にオフになります。このようなときは、「パネルオープン」（41ページ）を参照して電源をオンにしてから再度セキュリティコードを入力してください。

Menu

時計調整

時刻を合わせます。

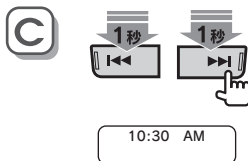
1 メニューモードにします

“MENU” と表示されるまで、押し続けます。

2 時計調整項目を選択します

時計調整モード

3 時刻合わせを開始します

10:30 AM

⏮ または ⏭ を時計が点滅表示されるまで押し続けます。

4 時刻を合わせます

“時” を合わせる

“分” を合わせる

5 時刻合わせを終了します

分を調整した時は、“00” 秒からカウントがスタートします。
メニューモードを終了するときは、もう一度押します。

日付設定

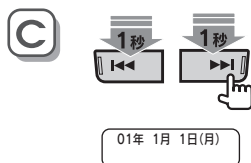
日付を設定します。

1　メニューモードにします

"MENU" と表示されるまで、押し続けます。

2　日付設定項目を選択します

日付設定モード

3　日付の設定を開始します

⏮ または ⏭ を日付が点滅表示されるまで押し続けます。

4　設定する項目を選択します

押すたびに、設定できる項目（年、月、日）が切り替わります。点滅中の項目が、設定可能な項目です。

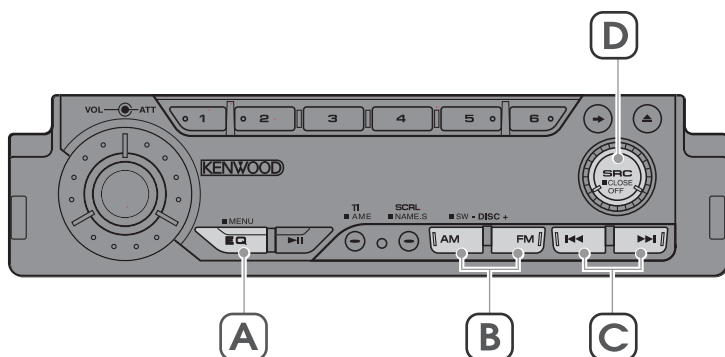
5　日付を調整します

年表示は西暦の下2桁を表しています。

6　4～5を繰り返して日付調整をします

7　日付設定を終了します

メニューモードを終了するときは、もう一度押します。

Menu

画像のダウンロード

動画や壁紙を本機にダウンロードして、ディスプレイに表示します。

1 CD-R/CD-RWを作成します

画像のダウンロード用のCD-R/CD-RWの作成方法はホームページ『http://www.kenwood.net-disp.com』をご覧ください。

2 CD-R/CD-RWを挿入します

ダウンロードするファイルの入ったCD-R/CD-RWを本機に挿入してください。

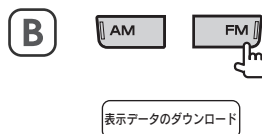
3 STANDBYモードにします

STANDBY

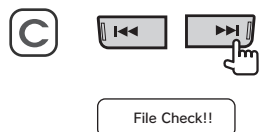
4 メニューモードにします

MENU

"MENU"と表示されるまで押し続けます。

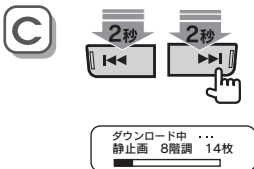
5 表示ダウンロード項目を選択します

表示データのダウンロード

6 画像のダウンロードモードにします

File Check!!

ダウンロードできる画像ファイルが見つからない場合は"表示データが見つかりません"と表示されます。 EQ ボタンを押すと画像のダウンロードモードが解除されます。

7 ダウンロードしたい画像ファイルを選択します

本機にダウンロードできるファイルやCD-R/CD-RWの作成方法は『http://www.kenwood.net-disp.com』をご覧ください。

8 画像のダウンロードを開始します

または を“ダウンロード中”と表示するまで押し続けます。
ダウンロードが終了すると“ダウンロード完了”と表示されます。

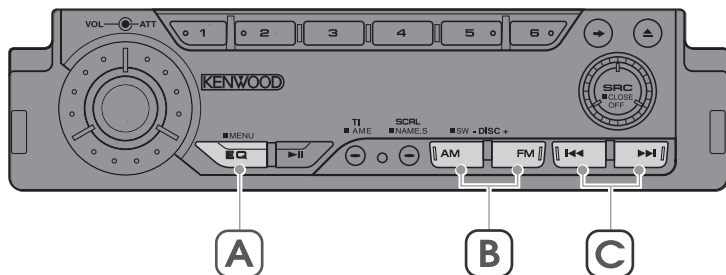
- “ダウンロード中”と表示されている間は、本機の操作や、エンジンの始動・切断などはしないでください。
- 画像のダウンロードには最大で10分程度の時間がかかります。

ダウンロードを中止するには…

9 画像の登録を終了します

メニューモードを終了するときは、もう一度押します。

- ダウンロードできる画像は、“動画”と“壁紙”とも各1ファイルです。新しい画像をダウンロードすると、今までの画像が書き替えられます。
- ダウンロードした画像を表示させるには「グラフィック/スペアナ表示切り替え」（36ページ）と「壁紙の選択」（37ページ）を参照してください。

Menu

LXアンプコントロール

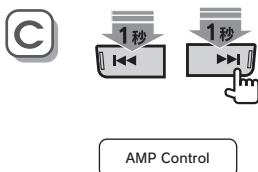
別売品のLXアンプが接続されているときに、本機からコントロールすることができます。

1 メニューモードにします

"Menu" と表示されるまで押し続けます。

2 アンプコントロールモードを選択します

AMP Control

3 アンプコントロールモードにします

AMP Control

"AMP Control" と表示されるまで押し続けます。

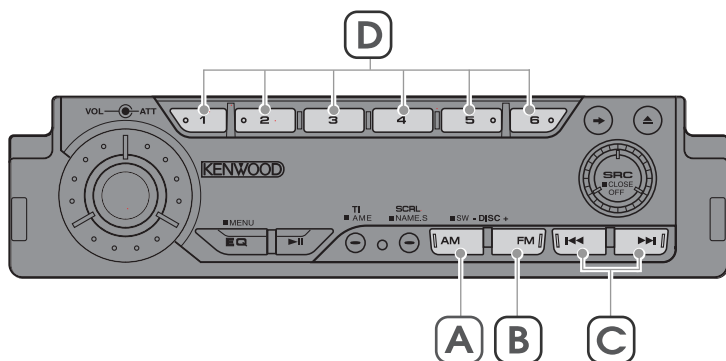
4 調整するアンプコントロール項目を選択します

アンプコントロール項目の詳細については、LXアンプに付属の取扱説明書をご覧ください。

5 アンプコントロール項目を調整します

6 アンプコントロールモードを終了します

LXアンプはSTANDBYモード中は操作できません。

TV コントロール

チャンネル選択

受信するTV放送を選びます。

動作は接続している別売品のTVモニターの設定によって異なります。
詳しくは、TVモニターの取扱説明書を参照してください。

バンド／ビデオ切り替え

ＴＶのバンドとビデオ入力を切り替えます。

押すたびにTVバンドとビデオ入力が切り替わります。

プリセットメモリー

受信中のTV放送局をメモリーします。

Before CHECK

<ソースキーモード>表示の状態で操作します。

1 2 3 4 5 6

<ソースキーモード>になっていない場合は、➔ を押します。

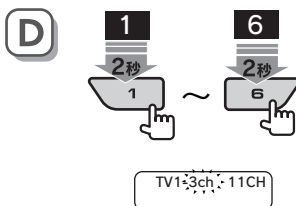
1 バンドを選択します

2 メモリーする放送局を選択します

3 メモリーボタン（1～6のいずれか）を選びます

TV1 3ch 11CH

ボタンナンバーが1回点滅表示するまで押し続けます。

オプション

別売品のLX-BUS 対応のナビゲーション“HDX-710”などが接続されているときに、本機からTVのコントロールをすることもできます。

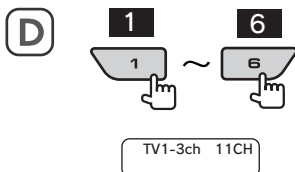
Before CHECK は、マルチキーシステムを使用している機能です。
はじめに「Help? Multi Key」（71ページ）をご覧ください。

プリセットチューニング

メモリーボタン（1～6）にメモリーされているTV放送局を受信します。

Before CHECK
<ソースキーモード>表示の状態で操作します。
1 2 3 4 5 6
<ソースキーモード>になっていない場合は、➔を押します。

1 バンドを選択します

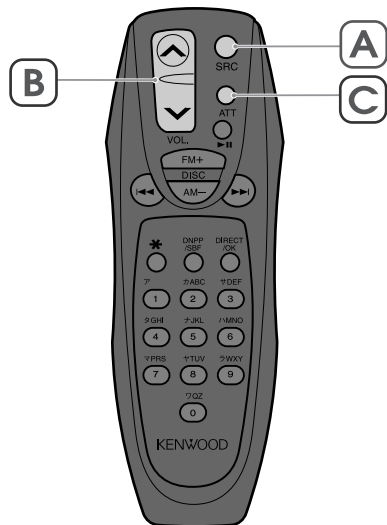
2 メモリーボタン（1～6のいずれか）を選びます

押したボタンの番号がメモリーナンバーに表示され、メモリーされているチャンネルが呼び出されます。

音声多重切り替え

音声多重のメイン音声とサブ音声を切り替えます。

オプション

リモートコントロール

各モード共通

ソース切り替え

プレイするソースを切り替えます。

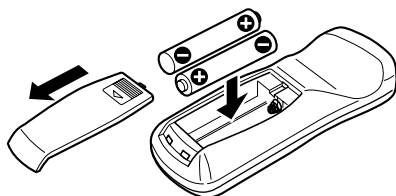
音量調節

音量を調節します。

アッテネーター

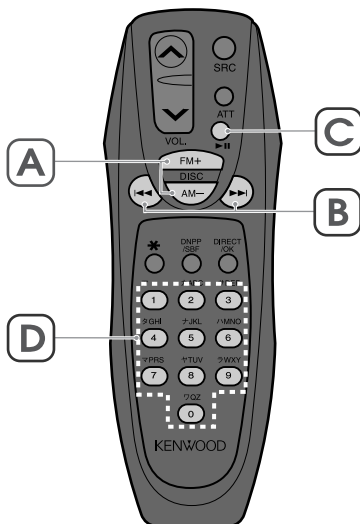
ワンタッチで音量を小さくします。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

電池の入れかた

付属の電池（単三型２本）を＋／－の向きを正しく合わせて入れてください。

操作できる距離が短くなったり、なかなか動作しない場合は、乾電池が消耗していることが考えられます。このような場合は、２個とも新しい乾電池と交換してください。新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用すると、液漏れなどによる故障の原因になります。

注 意

- リモコンは、ブレーキ操作などによって動かない場所においてください。ペダルの下などに落ちると、運転操作に支障をきたして危険です。
- 電池を充電、ショート、分解、加熱したり、火の中に入れたりしないでください。液漏れを起こす危険があります。液漏れを起こし、目に入ったり、皮膚や衣類に付着したときは、すぐに水で洗い流し、すぐに医師に相談してください。
  また、電池は子供の手の届かないところに置き、万一飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。

CD/MP3/WMA/Changer/KSF モード

ディスクサーチ（ディスクチェンジャーのみ）/フォルダサーチ

A

プレイするディスク／フォルダを選択します。
また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のディスクをダイレクトサーチします。

トラックサーチ／ファイルサーチ

B

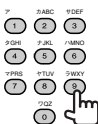
プレイする曲／ファイルを選択します。
また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のトラック／ファイルをダイレクトサーチします。

プレイ／ポーズ

C

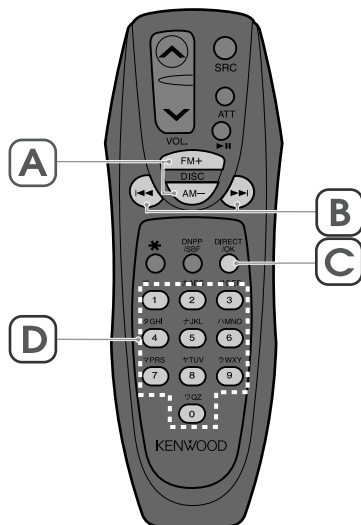
プレイを一時停止します。
もう一度押すと、プレイを再開します。

テンキー

D

テンキーに続けてディスクサーチまたはトラックサーチキーを押すと、ダイレクトサーチできます。
MP3/WMAファイルをプレイ時はテンキーに続けてファイルサーチキーを押すとプレイ中のフォルダ内のファイルをダイレクトサーチできます。

KSFをプレイ時は、ダイレクトサーチできません。

リモートコントロール

● TUNER モード

バンド切り替え

A 受信するバンドを切り替えます。

選曲

B 受信する放送局を切り替えます。

ダイレクトチューニング

C このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。

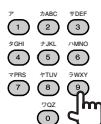
例：76.1MHz(FM)の場合（3桁）

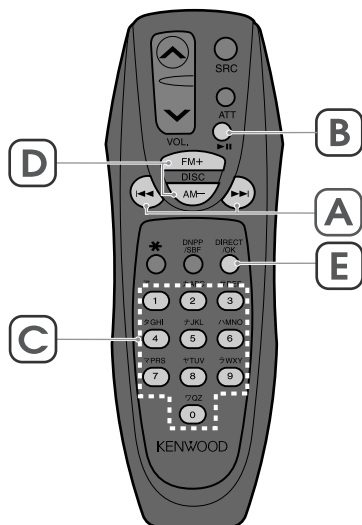
7 6 1

例：0522kHz(AM)の場合（4桁）

0 5 2 2

テンキー

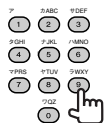
D メモリーされている放送局の番号を選択します。（1 〜 6）

ダイレクトサーチキーに続けて、受信するFM/AM放送局の周波数の数字を指定します。

DNPS（ディスクネームプリセット）/ SNPS（ステーションネームプリセット）

カーソル

カーソルを文字を入力する位置に移動します。

文字種切り替え

入力する文字の種類（英大文字/英小文字/数字・記号/かな/カタカナ）を切り替えます。

テンキー

文字を入力します。
例：「コ」を入力する場合（カタカナ）
②（9回押す）
例：「h」を入力する場合（英小文字）
④（2回押す）

文字選択

文字を順に切り替えます。

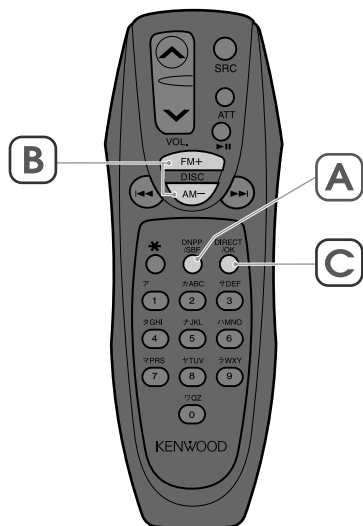
終了

登録が完了します。

SNPS/DNPSを開始するには、本体の SCRL NAME.S ⊖ を 2 秒以上押します。
詳しい操作方法は22ページを参照してください。

リモートコントロール

SBF（セレクトバイファイルプレイ）

別売品のCDチェンジャーにセットされているCDの中から、DNPSで付けたディスクネームを表示させて探す機能です。（SBFはリモコンでだけで使用できる機能です）

SBFを開始します

“DNPP”と表示されてSBFモードになります。
ディスクネームが５秒間ずつ表示されます。

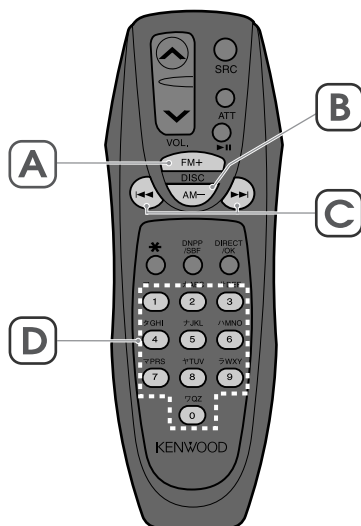
聴きたいディスクの表示順を変えます

ディスク名を順送り／逆送りします。

ディスクを選びます

表示中のディスクをプレイします。

SBFを中止します

TV モード

バンド／ビデオ切り替え

A 受信するTVバンドの放送局とビデオ入力を切り替えます。

音声多重切り替え

B メイン音声／サブ音声を切り替えます。

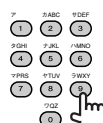
チャンネル選択

C 受信するチャンネルを選択します。

テンキー

D メモリーされている放送局の番号を選択します。（ 1 ～ 6 ）

Help ? Operation

電源がオンにならない

症状	処置
●ヒューズが切れている。	●コード類がショートしていないことを確認した後、同じ容量のヒューズと交換してください。
●入出力ケーブル、電源コード、パワーコントロールコードなどの接続が間違っている。	●「接続」(82ページ) を参照して正しく接続し直してください。

音が出ない/音が小さい

症状	処置
●フェダー、バランスが片方に寄っている。	●フェダーやバランスを正しく調整してください。(42ページ)
●メニュー設定の "AMP Mute" 項目が "ON" に設定されている。	●メニュー設定の "AMP Mute" 項目を "OFF" に設定してください。(48ページ)

操作スイッチを押しても動作しない

症状	処置
内蔵のマイコンが誤動作している。	リセットボタンを押してください。(8ページ)

音質が悪い (音がひずむ)

症状	処置
●音量が大きすぎる。	●音量を適正に調整してください。
●スピーカーコードが車両側のネジにかみ込んでいる。	●スピーカーの配線を確認してください。
●スピーカーの配線が間違っている。	●スピーカー出力端子をそれぞれのスピーカーと正しく接続してください。

チューナーの感度が悪い

症状	処置
●自動車のアンテナが伸びていない。	●アンテナを十分に伸ばしてください。
●アンテナコントロール電源が接続されていない。	●「接続」(82ページ) を参照して正しく接続し直してください。
●アンテナ入力がきちんと接続されていない。	●アンテナ入力を確実に接続してください。

SRCボタンを押しても、望むソースに切り替わらない

症状	処置
●それぞれのソースを聴くのに必要な別売品のユニットが接続されていない。	●接続されていないソースには切り替わりません。「接続」(82ページ) を見て正しく接続してください。
●別売品ユニットを接続後にリセットボタンが押されていない。	●リセットボタンを押してください。(8ページ)
●別売品ユニットのO-NスイッチをO側にしている。	●O-NスイッチはN側に設定してください。
●本機が対応していないディスクチェンジャーを使用している。	●対応モデルのディスクチェンジャーをお使いください。(8ページ)

オーディオコントロールで表示されない項目がある

症状	処置
メニュー設定の "dB PRO" 項目が "OFF" に設定されている。	メニュー設定の "dB PRO" 項目を "ON" に設定してください。(48ページ)

内蔵AUXを "OFF" に設定してもAUXソースに切り替わる

症状	処置
別売品KCA-S210AのAUXスイッチがONになっている。	KCA-S210Aに付属の取扱説明書を見てAUXスイッチをOFFにしてください。

ボリュームが調整できない

症状	処置
マルチコントロールモードになっている。	ボリューム調整モードにしてください。(16ページ)

電源をオフにしてもパネルが裏返らない

原因	対処
●障害物にあたって本機のプロテクションがかかった。	●SRCボタンをパネルが閉まるまで、押し続けてください。
●メニュー設定の“オートクローズ”項目が“OFF”に設定されている。	●メニュー設定の“オートクローズ”項目を“ON”に設定してください。(60ページ)

パネルが勝手に開く/角度が変わる

原因	対処
デモモードになっている。	リセットと[5]ボタンを同時に押して、デモモードを解除してください。

CD/Changer mode

ディスクが入らない

原因	対処
すでにディスクが入っている。	入っているディスクを取り出してから入れてください。

ディスクのプレイ中に振動で音飛びする

原因	対処
●取り付け角度が30゜を超えている。	●30゜以下になるように取り付けしなおしてください。
●取り付けが不安定になっている。	●しっかりと取り付け直してください。なお、駐停車中でも音飛びする場合や同じ場所で音飛びする場合はディスクに原因があります。

CDをプレイできない

原因	対処
●CDが裏返しになっている。	●レーベル面を上にして入れ直してください。
●CDが異常に汚れている。	●「CDの取り扱い」(10ページ)を見て、CDをクリーニングしてください。
●結露している。	●しばらく放置してから使用してください。(8ページ)
●CDが内部的に検出されていない。	●リセットボタンを押してCDを取り出してから、再度CDを挿入してください。(8 ページ)

選曲操作をしても、目的の曲に切り替わらない

原因	対処
ランダムプレイがオンになっている。	ランダムプレイをオフにしてください。(19ページ)

同じ曲を繰り返しプレイするだけで、次の曲に進まない

原因	対処
トラックリピートがオンになっている。	トラックリピートをオフにしてください。(19ページ)

曲の先頭しかプレイされない

原因	対処
スキャンプレイがオンになっている。	スキャンプレイをオフにしてください。(18ページ)

チェンジャー内の同じディスクだけしかプレイされない

原因	対処
ディスクリピートプレイがオンになっている。	ディスクリピートプレイをオフにしてください。(19ページ)

曲が順にプレイされない

原因	対処
ランダムプレイがオンになっている。	ランダムプレイをオフにしてください。(19ページ)

CD/Changer mode

ディスクが順に演奏されない

マガジンランダムプレイがオンになっている。 → マガジンランダムプレイをオフにしてください。(19ページ)

ダイレクトディスクサーチができない

ディスクが１枚しか入っていない。 → マガジンにディスクを２枚以上挿入してください。

マガジンランダムができない

ディスクが１枚しか入っていない。 → マガジンにディスクを２枚以上挿入してください。

CD-R、CD-RWがプレイできない

- ファイナライズ処理を行っていない。 → CDレコーダーでファイナライズ処理を行ってください。ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-R/CD-RWレコーダーの説明書をご覧ください。
- CD-R/CD-RW未対応のCDチェンジャーでプレイしている。 → CD-R/CD-RW対応のCDプレーヤー/CDチェンジャーでプレイしてください。

トラック/ファイルサーチできない

最初の曲で前の曲へ、最後の曲で先の曲へトラック/ファイルサーチしようとしている。 → ディスク/フォルダリピート中などを除き、最初の曲から最後の曲へ、最後の曲から最初の曲へはトラック/ファイルサーチできません。

リピートプレイ、スキャンプレイ、ランダムプレイがオフされない

ディスクを取り出さない限り、各機能は電源をオフにしても自動的にオフされません。 → 各機能をボタンでオフにするか、ディスクをイジェクトしてください。

ディスクを取り出せない

車両のACCスイッチをオフにしてから10分以上経過したため。 → ACCスイッチをオフにしてからディスクを取り出せるのは10分以内です。10分以上経過した場合は、再度ACCをオンにしてからイジェクトボタンを押してください。

CDテキストが表示されない

- 使用しているディスクチャンジャーが1997年以前に発売のディスクチェンジャーで、“O-N”スイッチがない。 → 1998年以降に発売のディスクチェンジャーを使用してください。
- 使用しているディスクチェンジャーの“O-N”スイッチを“O”にしている。 → ディスクチェンジャーの“O-N”スイッチを“N”にしてください。

文字がスクロールされない

- 情報文字数が12文字以下のため。 → 表示部に情報文字がすべて表示されている場合はスクロールされません。
- ディスクネームを表示しているため。 → スクロール表示されるのはディスク/トラックタイトル、ディスク/トラックテキスト、フォルダネーム、曲名、アルバム名およびアーティスト名です。

MP3/WMA

MP3/WMAファイルをプレイ中に音飛びする

原因	対処
ディスクに傷や汚れがある。	「CDの取り扱い」(10ページ)を見て、ディスクをクリーニングしてください。

MP3/WMAディスク、MP3/WMAファイルがプレイできない

原因	対処
●ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeoに準拠して記録されていない。	●ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeo(72ページ)に準拠したディスクを使用してください。
●MP3/WMAファイルに拡張子が付いてない。	●MP3ファイルには“.MP3”を付けて、WMAファイルには“.WMA”を付けてください。
●ディスクに傷や汚れがある。	●「CDの取り扱い」(10ページ)を見て、ディスクをクリーニングしてください。
●メニュー設定の“CD READ”項目が“2”に設定されている。	●メニュー設定の“CD READ”項目を“1”に設定してください。

MP3/WMAディスクをプレイ時に雑音が入る/音が出なくなる

原因	対処
MP3/WMAファイル以外に“.MP3”または“.WMA”拡張子が付いている。	MP3/WMAファイル以外に付いている“.MP3”または“.WMA”拡張子を消去してください。

フォルダネーム/ファイルネームが正しく表示されない

原因	対処
●ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeoに準拠して記録されていない。	●ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeo(72ページ)に準拠したディスクを使用してください。
●ライティングソフトで扱えない文字を使用して記録した。	●ライティングソフトの取扱説明書を参照して使用できる文字で記録してください。

演奏時間表示が実際の演奏時間と一致しない

原因	対処
MP3/WMAファイルの記録された状況により、演奏時間が一致しないことがあります。	—

MP3/WMAディスクをプレイするまで時間がかかる

原因	対処
ディスクに記録されているフォルダ/ファイル/階層が多い。	最初にディスク内のすべてのファイルをチェックするため、多くのファイルが記録されているディスクを使用すると、プレイされるまで長時間かかる場合があります。

MP3/WMAファイルが順番どおりにプレイされない

原因	対処
プレイさせたい順番どおりにライティングソフトで書き込まれなかったため。	ライティングソフトにより異なりますが、ファイル名の頭に“00”～“99”などと入力してから書き込むことで順番を設定できる場合もあります。

ID3 Tag情報が正しく表示されない

原因	対処
ID3 tagがv1.xに準拠して記録されていない。	ID3 tagをv1.xに準拠して記録してください。

CD-RWに記録したMP3/WMAファイルがプレイされない

原因	対処
CD-RWの消去を簡易フォーマットで行ったため。	CD-RWを消去するときは、フルフォーマットで行ってください。

MP3/WMA

トラック/ファイルサーチできない

原因	対処
最初の曲で前の曲へ、最後の曲で先の曲へトラック/ファイルサーチしようとしている。	ディスク/フォルダリピート中などを除き、最初の曲からから最後の曲へ、最後の曲から最初の曲へはトラック/ファイルサーチできません。

Menu

セキュリティコード項目が表示されない

原因	対処
すでにセキュリティコードを設定してある。	セキュリティコードを一度設定すると変更はできません。このため、メニュー設定項目から削除されます。

セキュリティコードを忘れた

原因	対処
セキュリティコードを調べることはできません。	ケンウッドサービスセンターにご相談ください。

画像のダウンロードができない

原因	対処
CD-R/CD-RWの作成方法が間違っている。	『http://www.kenwood.net-disp.com』をご覧になり、CD-R/CD-RWを作成し直してください。

Name Set/SBF

DNPSができない

原因	対処
●MDをプレイしている。	●MDにDNPSはできません。
●マガジンランダムがオンになっている。	●マガジンランダムをオフにしてください。

登録したはずのステーションネームが消えた

原因	対処
●FM放送で33局目、AM放送で17局目のステーションネームを登録した。	●登録できるステーションネームはFM放送で32局、AM放送で16局分です。
●車両のバッテリーを交換などしたため。	●本機をバッテリーから外すとステーションネームは消去されます。
●本機のリセットボタンを押したため。	●本機のリセットボタンを押すとステーションネームは消去されます。

登録したはずのディスクネームが消えた

原因	対処
●31枚目のディスクネームを登録した。	●登録できるディスクネームは本機のCDプレーヤーとCDチェンジャーを合わせて30枚です。
●本機のリセットボタンを押したため。	●本機のリセットボタンを押すとディスクネームは消去されます。

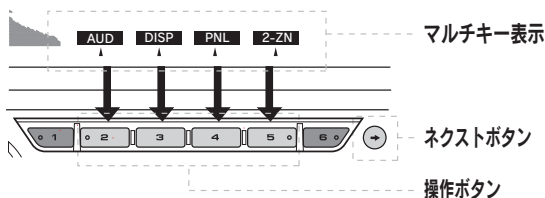
ディスクネームがまちがって表示される

原因	対処
総録音時間とトラック数が同じディスクがすでに登録されている。	識別する方法はありません。

SBFで名前が表示されない

原因	対処
●ディスクネームが登録されていない。	●ディスクネームを登録してください。
●プレーヤーやマガジンに入っているCDを一度もプレイしていない。	●すべてのCDをプレイしてください。

Help ? Multi Key

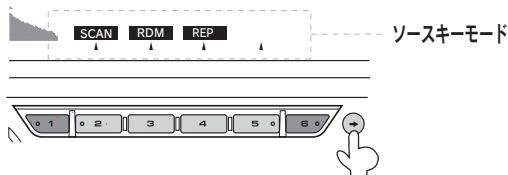
マルチキーシステムとは、１～６ボタンに割りあてられる機能を ➡ ボタンで<ディスプレイキーモード>と<ソースキーモード>を切り替えるシステムです。
本書では、 Before CHECK と記載されている機能は ➡ ボタンで対応のキーモードにしてから操作を行います。

<ディスプレイキーモード中の機能>

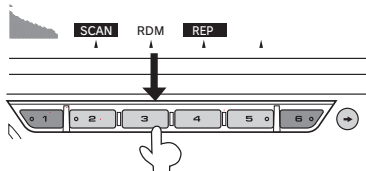
AUD …オーディオコントロールの設定ができます。(42～43ページ)
DISP …ディスプレイの表示を設定できます。(28～37ページ)
PNL …操作パネルの角度や位置の調節ができます。(38～39ページ)
2-ZN …デュアルゾーンの切り替えができます。(45ページ)

<ソースキーモード中の機能>

CD/MP3/WMA/Changer/KSF（18～21ページ）、TUNERモード（22～23ページ）およびTVモード(58～59ページ)など、音楽ソース別の機能を使うことができます。

【ソースキーモードの操作例】CDをプレイ中にランダムプレイをするときは…

1．<ソースキーモード>にします

<ソースキーモード>になっている場合は、手順２へ進みます。

2．ランダムプレイをオン/オフします

押すたびにランダムプレイがオン/オフします。

詳しいランダムプレイの操作方法については「ランダムプレイ」(19ページ）を参照してください。

Help ? MP3/WMA

本機はMP3/WMAファイルをプレイすることができますが、使用できるMP3/WMAファイルを記録したメディアやフォーマットには制限があります。MP3/WMAファイルを書き込むときには以下のことに注意してください。
以下に記載されている制限文字数はいずれも１byte文字を使用した場合の文字数です。

使用できるメディア

使用できるMP3/WMAを収録するためのメディアはCD-ROM、CD-R、およびCD-RWです。
なお、本機では簡易フォーマットで作成されたメディアはプレイできません。

プレイできるMP3フォーマット

本機でプレイできるMP3ファイルは、MPEG 1, MPEG 2 Audio Layer 3規格のものです。

- サンプリング周波数
  ：8,11.025,12,16 ,22.05 ,24,32,44.1,48（kHz）
- ビットレート：８～320（kbps）

プレイできるWMAフォーマット

本機でプレイできるWMAファイルは以下のフォーマットのものです。

- Windows Media™ Audio 準拠
- サンプリング周波数：32,44.1,48（kHz）
- ビットレート：48～ 192（kbps）

Windows Media™ Player 9以上の一部の機能を使用すると正常にプレイできない場合があります。
詳しい対応フォーマットに関する情報は、下記URLをご覧ください。
URL:http://www.kenwood.com/j/products/car_audio/q_and_a.html
また、コピープロテクト（著作権保護）されたファイルはプレイできません。

使用できるディスクのフォーマット

本機で使用できるディスクは、以下のフォーマットです。フォーマット名の後ろの文字数は、ファイル名に付けられる最大文字数（区切り文字“.”と拡張子３文字を含む）です。

- **ISO 9660 Level 1：12文字**
- **ISO 9660 Level 2：31文字**
- **Joliet：64文字**
- **Romeo：128文字**

なお、**ロングファイル名**形式で書き込んだ場合は、200文字まで表示が可能です。
使用できる文字はライティングソフトの説明書および下記「ファイル名とフォルダ名の入力」を参照してください。

ただし、本機で再生できるディスクには以下の制限があります。

- **最大ディレクトリ階層：８階層**
- **１フォルダ中の最大ファイル数：255**
- **最大フォルダ数：100**
- **最大フォルダ名：64文字**

前記のフォーマット以外で書き込まれたMP3/WMAファイルは、正常にプレイされなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

圧縮ソフトとライティングソフトの設定

MP3/WMAファイルに圧縮するときは、圧縮ソフトの転送ビットレートの設定は“128kbps”の“固定”を推奨します。
何も記録されていないメディアに一度で最大容量まで記録する場合は、“Disc at Once”の設定をしてください。

ファイル名とフォルダ名の入力

ファイル名とフォルダ名は、半角英数文字、カナ文字または日本語で入力してください。これ以外の文字で入力されているファイル名とフォルダ名は正常に表示されません。また、ライティングソフトや使用するディスクのフォーマットによって表示できる文字が制限されます。詳しくはライティングソフトの説明書をご覧ください。
また、MP3/WMAファイルと認識されてプレイされるファイルは、“.MP3”または“.WMA”の拡張子が付いたものだけです。MP3/WMAファイルには、“.MP3”または“.WMA”拡張子を付けて保存してください。

MP3/WMA以外のファイルに、“.MP3”または“.WMA”の拡張子を付けると、MP3/WMAファイルと誤認識して再生をしてしまい、大きな雑音が出てスピーカーなどを破損する恐れがあります。
MP3/WMA以外のファイルに、“.MP3”または“.WMA”拡張子を付けないようにしてください。

ID3/WMA Tagについて

本機で表示できるID3 Tagは、ID3 Tag v1.x規格で記録された曲名、アーティスト名、およびアルバム名です。また、表示できる文字種は英数文字、カタカナ、日本語（シフトJIS）です。
ID3 Tagで表示できるのは、曲名、アーティスト名およびアルバム名の30文字までです。
また、WMA Tagで表示できるのは、曲名およびアーティスト名の30文字までです。

メディアに書き込むファイルについて

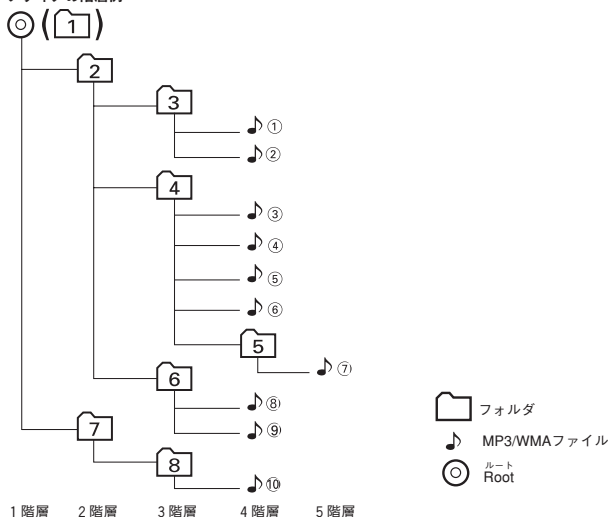
MP3/WMAが収録されているメディアを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。
このため、プレイするメディアに多くのフォルダやMP3/WMA以外のファイルを書き込むと、プレイするまで長時間必要になります。
また、次のMP3/WMAファイルのプレイに移るまで時間がかかったり、ファイルサーチやフォルダサーチがスムーズに行えない場合があります。

MP3/WMAファイルをプレイする順番

プレイ、フォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトでファイルやフォルダが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、プレイされると予想していた順番と実際にプレイされる順番が一致しないことがあります。

ライティングソフトにもよりますが、“01” ～ “99” などとファイル名の頭にプレイする順番を入力してからCD-Rなどに書き込むことで、プレイする順番を設定できることがあります。

以下のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでフォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトを行った場合は次のようになります。

フォルダ
MP3/WMAファイル
ルート
Root

♪④ 再生中にファイルサーチを行うと・・・・

プレイ中のファイルNo. ＼ 押すボタン	⏮	⏭
♪④	♪④の最初 ➧ ♪③	♪⑤ ➧ ♪⑥

♪④ 再生中にフォルダサーチを行うと・・・・

現在のフォルダNo. ＼ 押すボタン	AM	FM
[4]	[3] ➧ [2] ➧ [1] ➧ [8] •••	[5] ➧ [6] ➧ [7] ➧ [8] ➧ [1] •••

♪④ 再生中にフォルダセレクトを行うと・・・・

現在のフォルダNo. ＼ 押すボタン	⏮	⏭	AM	FM
[4]	[3]	[6]	[2]	[5]

音楽などの著作物を個人的に楽しむなどの場合を除き、著作権利者の許諾を得ずに複製（録音）、配布、配信することは著作権法で禁止されています。

共通

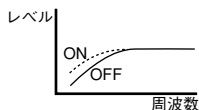
LX BUS TVモニター
(エルエックスバステレビモニター)
外部接続された別売品のテレビモニター(f-LZ77など)やナビゲーションシステム(HDX-710)です。

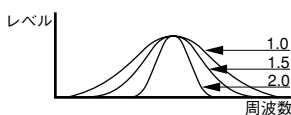
MP3
(エムピィスリー)
正式名「MPEG Audio Layer 3」の略称です。MPEG AudioはDVDやVideo CDなどに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。
使用できるMP3収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? MP3/WMA」(72ページ)をご覧ください。

WMA
(Windows Media™ Audio)
米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式「Windows Media™ Audio」の略称です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。
使用できるWMA収録メディアの種類やフォーマットなどは"Help? MP3/WMA"(72ページ)をご覧ください。

ディスクチェンジャー
外部接続された別売品のCDチェンジャー(KDC-C520, KDC-C510, KDC-C406など)、マルチメディアプレーヤー(VD-C77)です。

オーディオコントロール

Bass EXT
(バスエキステンデッド)
この機能をONに設定すると、低音中心周波数が低域側に約20%伸びた状態になります。

Bass FRQ/MID FRQ/TRE FRQ
(バスフリケンシィ/ミドルフリケンシィ/トレブルフリケンシィ)
低音、中音、高音を調節する周波数(中心周波数)を、この機能を使って設定することができます。

Bass Q/MID Q
(バスクォリティーファクタ/ミドルクォリティーファクタ)
低音と中音の調節スロープを設定する機能です。設定値が大きくなるほどスロープの傾斜が大きくなります。

dBイコライザー
(ダイナミックブーストイコライザー)
ジャンル別に設定された効果には以下のような特徴があります。

ROCK: スピーディーで力強いアタック音を再現します。
VOCAL: 生き生きとしたボーカルを主体に再現します。
EASY: 中低域をベースにした味わい深いサウンドを再現します。
DANCE: ビートの利いた音を再現します。
JAZZ: ウッドベースの音階やボーカルの質感を鮮明に再現します。
SRS WOW:「自然な立体音場感」、「豊かな低音」、「輪郭のはっきりしたクリアーなサウンド」を同時に再現します。(圧縮オーディオの音質を飛躍的に向上させるのにも有効です)

HPF Front/HPF Rear
(ハイパスフィルターフロント/ハイパスフィルターリア)
サブウーファーを追加するとき、この機能を使って高・中音用のスピーカーから低音を削除することができます。
設定した周波数より低い音域をカットします。"Through"に設定すると、この機能を無効にすることができます。

LPF
（ローパスフィルター）
サブウーファー出力から高音を削除することができます。サブウーファー出力をサブウーファー用として使用するときに、この機能で低域のみの音にすることができます。
設定した周波数より高い音域をカットします。これにより効率の良い低域再生が可能となります。“Through”に設定すると、この機能を無効にすることができます。

NAV VOL
（ナビボリューム）
ナビ音声案内時のナビ音声案内の音量を設定することができる機能です。

SRS WOW
本機では、米国SRS社のWOW回路により、サウンドに大迫力の重低音を付加したり、立体的な音場にして再生することができます。
SRS WOWの効果は、オーディオコントロール（42ページ）の【WOW】調整項目で設定することができます。

TruBass： “ON”に設定するとバランスのとれた重低音を再現することができます。
FOCUS： 擬似的にスピーカーの位置を上（“HIGH”）または下（“LOW”）を選択して音像の上下と輪郭を調節します。
SRS 3D： “ON”に設定すると奥行き感のある立体的な音場にすることができます。
SRS WOW： “SRS TruBass”、“FOCUS”および“SRS 3D”の値を一括で設定することができます。

SRS WOW	TruBass	FOCUS	SRS 3D
HIGH	ON	HIGH	ON
LOW	ON	LOW	ON
OFF	OFF	OFF	OFF

Volume Offset
（ボリュームオフセット）
オーディオコントロールで“Volume Offset”を設定すると、聴く時点での音量に対して、各ソースごとで音量差を設定しておくことができます。

メニュー設定

AMP BAS
（アンプバスコントロール）
EXT.CONT.コードで接続した別売品のB.M.S機能搭載パワーアンプの、低音域の増幅量をこの機能でコントロールできます。
変更される値や変更時のアンプ側の動作はアンプにより異なります。詳しくは接続しているパワーアンプに付属の取扱説明書をご覧ください。
B.M.S機能搭載アンプについては、カタログをご覧ください。

AMP FRQ
（アンプフリケンシィ）
「AMP BAS」で設定した低音増幅の中心周波数を調整する機能です。
“Low”に設定すると、周波数が20～30%低くなります。

AMP Mute
（アンプミュート）
フロントスピーカー、リアスピーカーともプリアウト端子にパワーアンプを接続してシステムを組んでいるようなときは、この機能を“ON”に設定することにより、内蔵アンプの稼働を停止させることができます。
内蔵アンプの稼働を停止させると、プリアウトからの音声出力のクォリティをアップさせることができます。

Dimmer
（ディマー）
この機能を“ON”に設定しておくと、車両のライトスイッチをオン/オフにしたときに、ディスプレイの明るさを切り替えることができます。

DSI
（ディセイブルシステムインジケーター）
この機能をオンにしておくと、パネルを外したときにLEDが点滅し、盗難防止警告ランプの代用として使用できます。

Beep
（ビープ）
SRCボタンを押したときや、ボタンを１秒以上または２秒以上押したとき、押されたことを確認できるように“ピッ”音がする機能です。うるさく感じたときには“OFF”に設定することにより消すことができます。
なお、Beep音はプリアウトからは出力されません。

dB PRO
(ダイナミックブーストプロ)
オーディオコントロール時に“Bass FRQ”、“Bass Q”、“Bass EXT”、“MID FRQ”、“MID Q”、“TRE FRQ” 項目も含めて調整するか設定ができます。詳細な設定をしないときは、“OFF” に設定しておけば、これらの項目に切り替わらないので、スムーズな項目の切り替えができます。

CD READ
(CD リード)
特殊なフォーマットのCDをプレイ時に、正常にプレイができない場合に“CD READ 2”を設定すると強制的にCDをプレイすることができる機能です。なお、“CD READ 2”に設定しても、音楽CDによってはプレイできない場合があります。また、“CD READ 2”に設定するとMP3/WMAのプレイはできなくなります。通常は“CD READ 1”でお使いください。

CD READ 1： MP3/WMAディスクと音楽CDを自動認識して再生します。
CD READ 2： 音楽CDとして強制的にプレイします。

Rotary
(ロータリー)
この機能を“ON”に設定しておくと、ロータリーボリュームをジョグダイアルモードに切り替えることができます。

▼Blink
(トライアングルブリンク)
この機能を“ON”に設定しておくと、MENUやAUDIOなどの調整モード中にトライアングルインジケーターが点滅します。

Panel CONT
(パネルコントロール)
この機能を“1”に設定しておくと、「表示パネルパネル位置調節」(39ページ)で一番奥の位置に設定するとパネルの角度が水平に固定されエスカッションとの干渉を防ぐことができます。

オートクローズ
(オートクローズ)
ACCオフおよびパワーオフしたときのパネルの動作を設定できます。

ON： パネルが閉じます。
OFF： パネルが閉じません。

Dual Zone システム
(デュアルゾーンシステム)
本機では、内蔵AUX(“AUX”)、別売品のディスクチェンジャー、KCA-S210AまたはCA-C1AXを接続したときの外部AUX(“AUX EXT”)、およびKSFをフロントチャンネルとリアチャンネルに異なるソースの音を出力することができます。
まず、「デュアルゾーン」(45ページ)でデュアルゾーンを“OFF”にして、フロントおよびリアから出力するソースを設定します。
“CD Changer”、“AUX EXT”または“HDD”を選択時

Front： フロント.. ディスクチェンジャー、外部AUXソースまたはKSFの音声を出力
リア...... CD、TUNER、または内蔵AUXソースの音声を出力
Rear： フロント... CD、TUNER、または内蔵AUXソースの音声を出力
リア...... ディスクチェンジャー、外部AUXソースまたはKSFの音声を出力

“AUX”を選択時

Front： フロント.. 内蔵AUXソースの音声を出力
リア...... CD、TUNER、ディスクチェンジャー、外部AUXソースまたはKSFの音を出力
Rear： フロント... CD、TUNER、ディスクチェンジャー、外部AUXソースまたはKSFの音を出力
リア...... 内蔵AUXソースの音声を出力

次に、デュアルゾーンを設定します。
ON： フロントとリアで異なるソースの音声を出力
OFF： フロントとリアで同じソースの音声を出力
なお、デュアルゾーンの設定を“ON”に設定している場合は、オーディオコントロールなどのサウンドエフェクトはデュアルゾーンに設定していないスピーカーにかかります。

EJECT ANG
(イジェクトアングル)
イジェクトボタンを押して本機からディスクを出し入れするときの操作パネルの開閉動作を設定できます。

SLP： 現在のアングルのままディスクの出し入れをします。
LVL： 操作パネルがいったん水平の位置になり、その状態でディスクの出し入れを行います。その後、ディスクの出し入れが終了すると元のアングルに戻ります。

Guide
（ガイド）
カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の動作を設定することができます。この機能を使用する場合は、本機とナビゲーションシステムのラインミュート端子またはミュート端子を接続してください。

ATT：　ナビ音声ガイド時は、オーディオの音を小さくします。

INT：　ナビ音声ガイドをフロントスピーカーから出力します。

オーディオコントロール（42ページ）の【WOW】調整項目の“TruBass”または“SRS”を“ON”に設定しているか、“FOCUS”を“HIGH”または“LOW”に設定している場合、ナビ音声ガイド中はオーディオの音はリアスピーカーから出力されません。
この機能を“INT”に設定して、ナビ音声ガイドの割り込みをする場合は、「接続」（82ページ）を参照して、AUX入力にナビゲーションシステムを接続してください。
ケンウッド製カーナビゲーションシステムを接続してこの機能を使用する場合は、ナビゲーションシステムの「オーディオATT」機能をオンに設定してください。また、2001年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムを接続している場合は「音声割り込み」機能もオンに設定してください。
なお、この機能は1997年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムやケンウッド製以外のカーナビゲーションで使用すると正常に動作しない場合があります。

SCL
（スクロール）
ディスプレイにディスク/トラックタイトル、ディスク/トラックテキスト、フォルダネーム、曲名、アルバム名またはアーティスト名を選択しているとき、文字数が多いため表示しきれない場合にスクロールして表示する機能です。
この機能を“Auto”に設定しておくとスクロール表示を繰り返し行い、“Manual”に設定しておくと表示が変わったときだけ１回スクロール表示するようにできます。

AUX IN
（エーユーエックスイン）
ソース選択時に内蔵AUXソースも含めて切り替えるかを設定することができます。内蔵AUX入力を使用していないときは、“OFF”に設定しておけば、内蔵AUXソースに切り替わらないので、スムーズなソース切り替えができます。

MONO
（モノラル）
この機能でFMステレオ放送をモノラル音声にすることができます。
受信状態の悪いFM放送局を聴いているときに、音声をモノラルにすると雑音が軽減されて聞き易くなるときがあります。

Off Wait
（オフウエイト）
この機能は、電源をオフにしてからフロントパネルを取り外すのにかかる時間（フロントパネルが裏返り始めるまでの時間）を設定できます。
フロントパネルを取り外すと盗難防止の手助けとなります。

Security
（セキュリティ）
セキュリティコードを設定しておくと、本機の電源コードを外したときやリセットボタンを押したときなどのあとに、次に初めて使うときは、設定したセキュリティコードを入力しないと電源がオンできないようになります。すなわち、本機を車両から外したときは、セキュリティコードの入力が必要になるため、盗難防止の手助けとなります。

Seek
（シーク）
放送局の探し方を設定することができます。

Auto 1：放送局を自動的に見つけ出します。

Auto 2：メモリーされている放送局を順番に受信します。

Manual：1ステップずつ周波数が変わります。

漢字優先
CDテキストやMDタイトルなどが漢字およびカタカナまたはローマ字で記録されているディスクを聴いているときに、これらを漢字で表示するか、カタカナまたはローマ字で表示するかの設定ができます。

ON　：漢字で表示（漢字が登録されていない場合は、カタカナまたはローマ字で表示）

OFF：カタカナまたはローマ字で表示

表示データのダウンロード
動画や壁紙をCD-R/CD-RWから本機にダウンロードしてディスプレイに表示することができる機能です。
ダウンロードできるファイルやCD-R/CD-RWの作成方法は『http://www.kenwood.net-disp.com』をご覧ください。

無効な操作を以下のようにに表示してお知らせします。

Eject	：●ディスクマガジンがセットされていない。 ●ディスクマガジンが完全に入っていない。 など
No Disc	：ディスクマガジンにディスクが1枚も入っていない。
NO DISC	：ディスクが入っていない状態。
TOC Error	：●ディスクが異常に汚れている。 ●ディスクが裏返しになっている。 ●ディスクに傷が多く付いている。 ●ディスクが入っていない。 ●トレイが入っていない。
E-05	：ディスクが裏返しになっている。
Blank Disc	：演奏しようとしたMDにデータが1つも記録されていない。
No Track	：演奏しようとしたMDに何も録音されていない。
E-12	：演奏しようとしたMDがデータ用です。
NO NAME	：ディスクネームプリセットされていないディスクを演奏中に、ディスク名表示にしようとした。
NO ACCESS	：CDをディスクチェンジャーに入れてから１回もプレイをしていない状態でSBFを行った。
Unsupported	：サポートされていないMP3/WMAフォーマットのファイルをプレイしようとした。
Protected	：コピープロテクトされているWMAファイルをプレイしようとした。

システムの状態を以下のように表示してお知らせします。

E-77 ：何らかの原因で正常に動作していない。
➡本機のリセットボタンを押してください。"E-77"の表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

Hold Error ：ディスクチェンジャーの内部温度が60℃以上になると保護回路が働き、動作しなくなることがあります。このときこの表示が出ます。
➡ディスクチェンジャーの取り付け場所の温度を下げてから使用してください。

Mecha Error ：●ディスクマガジンに異常がある。
➡ディスクマガジンを取り出して、ディスクマガジン内を確認してください。
●何らかの原因で正常に動作していない。
➡イジェクトボタンを押してください。イジェクトボタンを押しても表示が消えないときは本機のリセットボタンを押してください。なお、表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

INインジケーターが点滅
：CDプレーヤーが正常に動作していない。
➡CDを取り出してから、CDを入れなおしてください。

Load (点滅) ：ディスクチェンジャー内のディスクを交換中です。

Reading ：ディスクに収録されているデータのチェック中です。

Demo Mode ：デモモードになっている。
➡リセットボタンと[5]ボタンを同時に押して、デモモードを解除してください。

画像のダウンロード中の異常を以下のように表示してお知らせします。

ダウンロード失敗しました
ダウンロードできません ：何らかの原因で正常に動作していない。
➡再度ダウンロードを行ってください。再度、表示される場合はお近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

表示データ見つかりません
：CD-ROM/CD-RWにダウンロードが可能なファイルがありません。
➡『http://www.kenwood.net-disp.com』からダウンロードしたファイルが入っていることを確認してください。
なお、ダウンロード時についている拡張子（.kbmまたは.KBM）は削除しないでください。

ファイルが違います ：使用できないフォーマットのファイルをダウンロードしようとした。
➡ファイルを作成し直してください。

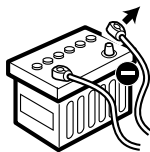
書き込みエラー ：ファイルのダウンロード中に書き込みを失敗した。
➡再度ダウンロードを行ってください。

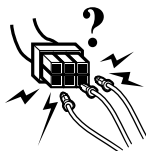
取り付け時のご注意

⚠警告

禁 止

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。本製品はDC12V㊀アース車専用です。

実 施

配線作業中は、バッテリーの㊀端子を外してから行ってください。
ショート事故による感電やケガの原因となります。

実 施

本製品の配線は必ず、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。
配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

禁 止

コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

禁 止

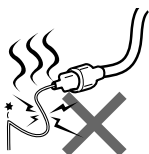
本製品を前方の視界を妨げる場所や、運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けないでください。交通事故やケガの原因となります。

実 施

本製品を取り付けの際には、必ず付属の取付用部品をご使用ください。取付用付属品をご使用にならないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。また、取り付け不備により運転中に製品が外れて人に当たるなど、ケガの原因となります。

禁 止

アースコードを、ステアリング部やブレーキライン系統などの重要保安部品のボルトやナットに取り付けないでください。事故などの原因となります。

禁 止

車両電源配線用コード以外で延長しないでください。
コードの被覆が破れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。
また、電流容量オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。

実 施

車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。
コードが切れると、ショート事故により、火災となるおそれがあります。

実 施

バッテリー電源（黄）を接続する車両側電源のヒューズ容量が、本機のヒューズ容量（10A）以上であることを確認してください。
また、別売品のパワーアンプなどを接続する場合は、それらと本機との総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし、超える場合には、バッテリーから直接電源を取ってください。
車両側のヒューズ容量を超える電源を接続すると、リード線の電流容量オーバーにより、火災などの事故の原因となります。

注 意

車体に穴を開けて取り付ける際は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと当たったり接触することがないようにしてください。火災の原因になります。

実 施

本製品の取り付け終了後に、車のブレーキランプ、ヘッドランプ、ウィンカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。

注 意

本製品、または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因になります。

実 施

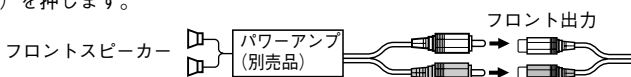
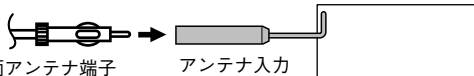
事故防止のため、電池やネジなどの小物類は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

接続

実 施

**初めにエンジンキーが抜かれていることを確認後、
ショート事故防止のため必ずバッテリーの㊀端子を外してください。**

1. エンジンキーを抜きます。
2. 各セットの入・出力コードを確かめて接続します。
3. 電源ハーネスのスピーカーコードを接続します。
4. 電源ハーネスをアースコード（黒）、バッテリー電源コード（黄）、アクセサリー電源コード（赤）の順に接続します。
5. 電源ハーネスのコネクターを本機に接続します。
6. 取り付け終了後に、バッテリーの㊀端子を接続します。
7. 電源をオンします。
8. 本機のリセットボタン（８ページ）を押します。

注 意　本機を車両に取り付ける前
一度電源をオンし、リセッ
タンと[5]ボタンを同時に押
デモモードを解除してくだ

ラインミュート入力（茶）をケンウッド製以外のカーナビゲーションシステムに接続すると誤動作する場合があります。誤動作する場合は、「メニュー設定」（48ページ）の “Guide” 項目を “OFF” に設定してください。

ヒューズ（10A）

電源
ハーネス
（付属）

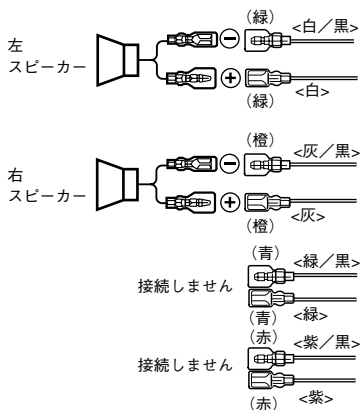
注 意　ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、**ヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。**規定容量以外のヒューズを使用すると、火災の原因になります。

フロント左
スピーカー
（緑）
<白／黒>
<白>
（緑）

フロント右
スピーカー
（橙）
<灰／黒>
<灰>
（橙）

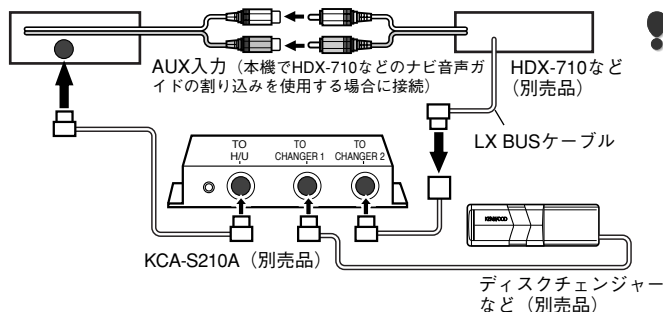
リア左
スピーカー
（青）
<緑／黒>
<緑>
（青）

リア右
スピーカー
（赤）
<紫／黒>
<紫>
（赤）

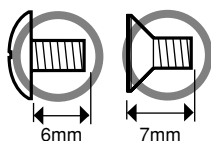
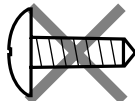
注 意

- スピーカーコードの㊉㊀端子を車のシャーシなどに接触させないでください。
- 複数のスピーカーコードの㊀端子を共通にして接続しないでください。

サブウーファー出力
SUB WOOFEER
パワーアンプ（別売品）
サブウーファー
AUX入力
AUX IN
ビデオ/ナビゲーションシステムなど（別売品）
ナビゲーションシステムの音声出力は、AUX入力に接続します。
リア出力
REAR
パワーアンプ（別売品）
リアスピーカー
FRONT
外部ディスクプレーヤー/ LX-BUSシステム端子
詳しい接続のしかたは外部ディスクプレーヤーまたはLX-BUS接続のカーオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。
KENWOOD
ディスクチェンジャーなど（別売品）
ディスクチェンジャーケーブル（ディスクチェンジャーに付属）
●別売品のディスクチェンジャーやCDプレーヤーにO-Nスイッチが付いている場合は“N”に設定してください。
●別売品のKCA-S210Aを接続する場合は、KCA-S210A付属の取扱説明書で“Dユニット”項目を参照してください。
ANT CONT
アンテナコントロール（青）
オートアンテナのコントロール端子やガラスプリントアンテナのブースターアンプの電源端子へ接続してください。接続しない場合はキャップを付けたままにしてください。
P.CONT
パワーコントロール（青/白）
別売パワーアンプのパワーコントロール端子へ接続してください。接続しない場合はキャップを付けたままにしてください。
LINE MUTE
ラインミュート入力（茶）
ケンウッド製ナビゲーションシステムのラインミュート端子またはミュート端子に接続してください。
ILLUMI
イルミネーション（橙/白）
車両のイルミネーション電源端子に接続してください。
EXT. □ CONT
外部アンプコントロール（桃/黒）
外部アンプの外部アンプコントロール（"EXT.AMP.CONT."）端子に接続してください。接続しない場合はキャップを付けたままにしてください。
ヒューズ
ACC
アクセサリー電源（赤）⊕
エンジンキーでオン/オフできる電源へ接続してください。
アクセサリー電源
エンジンキー
BATT
バッテリー電源（黄）⊕
メインヒューズを通ったあとで、エンジンキーのオン/オフに関係なく常に電圧のかかっている電源へ接続してください。
バッテリー電源
メインヒューズ
アース（黒）⊖
車の金属部分（バッテリーのマイナス側と導通しているシャーシなどの一部）へ接続してください。
バッテリー

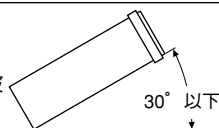
接続／取り付け

KCA-S210A（別売品）を使ってLX BUS TVモニターを接続する場合

- KCA-S210Aに付属の取扱説明書で“Dユニット”項目を参照してください。
- 別売品に“O-Nスイッチ”がある場合は“N”に設定してください。
- HDX-710などは、KCA-S210Aの“TO CHANGER2”端子に接続してください。
- HDX-710などでナビ音声ガイドの割り込みを行う場合は「メニュー設定」（48ページ）の“Guide”項目を“INT”にして、LX BUSケーブルを接続してください。

本機を取り付けるには、付属のトラスネジ（M5 × 6mm）またはサラネジ（M5 × 7mm）を4本使用して車両ブラケットなどに取り付ける方法とスリーブケースに本機を固定して取り付ける方法の２通りあります。

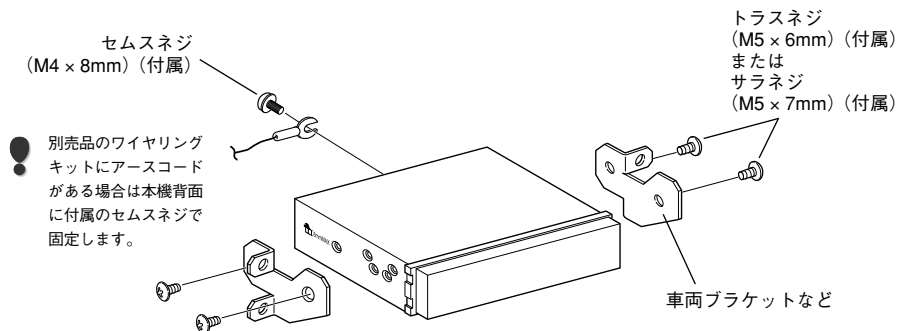
取り付けには必ず付属のネジをご使用ください。
付属以外の長いネジを使用すると、本機内部が破壊したり、発煙することがあります。
また、短いネジを使用すると、本機が取付ブラケットなどから外れることがあります。

取付ネジ一覧

ネジ	数量
トラスネジ（M5 × 6mm）	4
サラネジ（M5 × 7mm）	4
セムスネジ（M4 × 8mm）	1

- 本機の取り付け角度は30˚以下になるように取り付けてください。30˚以上の角度で取り付けると音飛びの原因になります。
- 操作パネルを持って取り付け／取り外しをしないでください。破損することがあります。

別売品のワイヤリングキットや取り付けキットを使用することにより、車にベストフィットした取り付けができます。キットは取り付ける車種に応じて用意されています。詳しくはカタログをご覧ください。

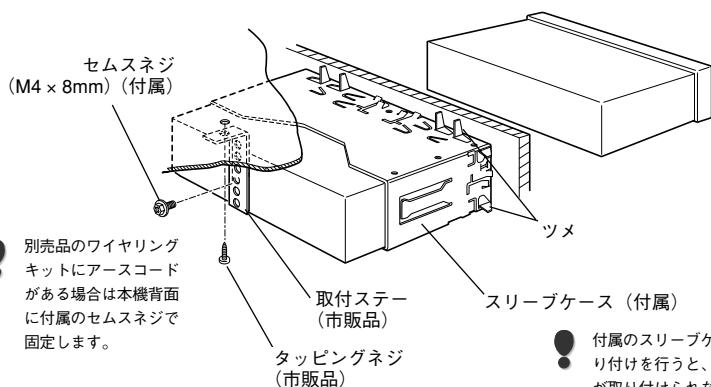
◆車両ブラケットを使用して取り付ける場合

スリーブケースを本機から取り外してから取り付けを行います。

別売品のワイヤリングキットにアースコードがある場合は本機背面に付属のセムスネジで固定します。

◆スリーブを使って取り付ける場合（マツダ車/欧州車）

1. スリーブケースを本機から取り外します。
2. スリーブケースのツメをドライバーなどで外側に曲げて、スリーブケース（付属）を車両に固定します。（下記図を参照）
3. 本機をスリーブケースに挿入します。

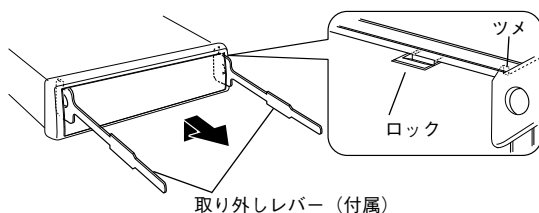
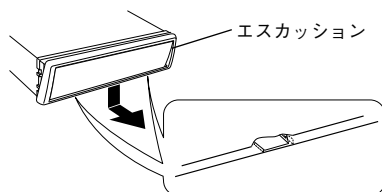
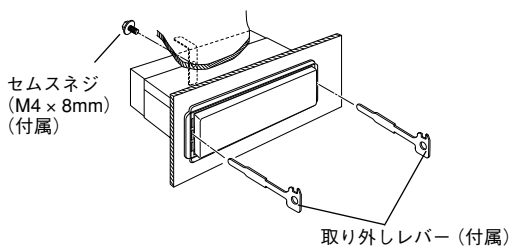
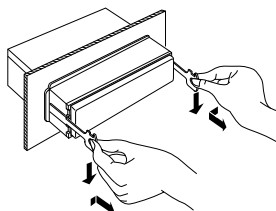
●エスカッションは上下どちらでも取り付けることができます。
凹み部を上にして取り付けると、ディスクの出し入れが行いやすくなります。
●エスカッションを取り付ける際は、エスカッションの四隅を押してください。

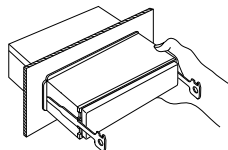
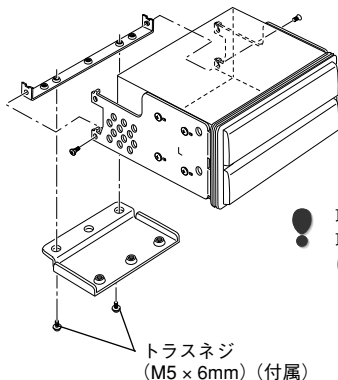
別売品のワイヤリングキットにアースコードがある場合は本機背面に付属のセムスネジで固定します。

付属のスリーブケースを使用しないで取り付けを行うと、付属のエスカッションが取り付けられない場合があります。

取り付ける車に合わせて、取付ステー（市販品）などを使用して背面を固定します。

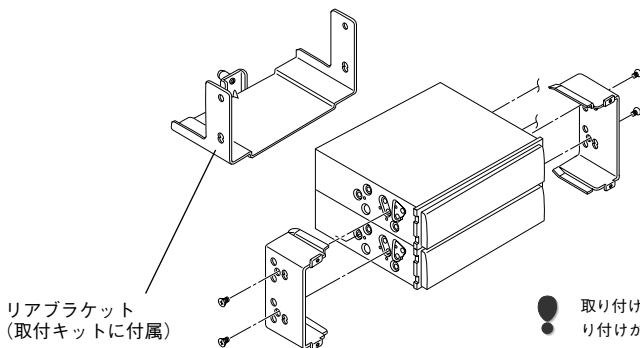
取り付け

◆スリーブケースを使用して取り付けた場合の本機の取り外しかた

1. 付属の取り外しレバー（２本）を使用して、パネル両側の隙間に挿入し、取り外しレバーのツメをスリーブケースにひっかけてロックを外します。

2. エスカッションを手前に取り外します。

3. 背面のセムスネジ（M４× 8 mm）を取り外して、取り外しレバーを右図パネル側面に差し込みます。

4. 取り外しレバーを下側へ押し下げながら、レバーを手前へ引き出します。

取り外しレバーの先端で怪我をしないよう、注意をして作業を行ってください。

5. 本機を手で引き出します。

◆取り付けキットSKH-460AまたはUA-H27Dを使用してホンダ車に取り付ける場合

取り付けキットSKH-460AまたはUA-H27Dによる取り付けかたは、取り付けキットSKH-460AまたはUA-H27Dに付属の取付説明書をご覧ください。

注意　取り付けキットSKH-460AまたはUA-H27Dに付属の座ネジ（M5×10mm）は使用せず、本機に付属のトラスネジ（M５×６mm）を使用して取り付けを行ってください。
取り付けキットSKH-460AまたはUA-H27Dに付属のネジを使用すると、電源コードに触れ危険です。

◆取り付けキットSKR-471またはUA-T39Dを使用してマツダ車、欧州車に取り付ける場合

取り付けキットSKR-471またはUA-T39Dによる取り付けかたは、取り付けキットSKR-471またはUA-T39Dに付属の取付説明書をご覧ください。

注意　取り付けキットSKR-471またはUA-T39Dに付属のリアブラケットは使用せず、取り付けを行ってください。

◆UA-H27D、UA-T39Dは「カナネット」ブランド商品です。取付キット「カナネット」に関するお問い合わせは下記の会社に直接お願いいたします。

株式会社　カナック企画

電話(03)5660-1234　　FAX(03)5660-1231

受付時間　9:00～17:00（土、日、休日設定日は休ませていただきます）

保証とアフターサービス

保証について

●保証書
この製品には、保証書を別途添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

●保証期間
お買上げの日より **1 年**です。

修理を依頼されるときは
「Help ?Operation」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にお問い合わせください。（別紙"ケンウッド全国サービス網"をご参照ください。）

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● 保証期間中は…
保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。

本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は…
お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後**6年**です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● 持込修理
この製品は持込修理とさせて頂きます。

- 本機をお持ちになるときは、接続しているユニットも一緒にお持ちください。
（本機や一緒に持ち込まれるユニット内のディスクやテープなどのメディアはあらかじめ取り出してください。）
- 製品を修理に持ち込まれる際は、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。

● 修理料金のしくみ（有料修理の場合は、つぎの料金が必要です。）

- 技術料：故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代：修理に使用した部品代です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、営業所にご遠慮なくお問い合わせください。

仕様一覧

FMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）	76.0 MHz～90.0 MHz (100 kHz)
実用感度（S/N:30 dB）	9.3 dBf (0.8 μV/75 Ω)
S/N 50 dB感度	15.2 dBf (1.6 μV/75 Ω)
周波数特性（±3.0 dB）	30 Hz～15 kHz
S/N比	70 dB (MONO)
選択度（±400 kHz）	80 dB以上
ステレオセパレーション	40 dB (1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）	522 kHz～1629 kHz (9 kHz)
感度	28 dBμ (25 μV)

CDプレーヤー部

レーザーダイオード	GaAIAs
デジタルフィルター	8倍オーバーサンプリング
D/Aコンバーター	1 Bit
ワウ & フラッター	測定限界以下
周波数特性	10 Hz～20 kHz (±1 dB)
高調波歪率	0.01 % (1 kHz)
回転数（CD-DA/MP3/WMA）	1000～400 rpm（線速度一定・倍速）
S/N比	105 dB (1 kHz)
ダイナミックレンジ	93 dB
チャンネルセパレーション	95 dB
MP3デコード	MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード	Windows Media™ Audio 準拠

オーディオ部

最大出力	50 W × 4
定格出力	30 W × 4 （4 Ω, 1kHz, 10%THD以下）
プリアウトレベル	2000 mV/10 kΩ（CD/CD-CHプレイ時）
プリアウトインピーダンス	600 Ω以下
トーン・コントロール（Bass）	60 Hz～150 Hz ±8 dB
（Mid）	500 Hz～2 kHz ± 8dB
（Treble）	10 kHz～17.5 kHz ± 8dB
AUX入力周波数特性	20 Hz～20 kHz (±1 dB)
AUX入力最大電圧	1.2 V
AUX入力インピーダンス	100 kΩ

電源部

電源電圧	14.4 V (11～16 V)
最大消費電流	10 A

寸法・質量

埋込寸法（W × H × D）	180 × 50 × 166.5 mm
質量（重さ）	1.9 kg

付属部品

電源ハーネス	1本
サラネジ（M5 × 7mm）	4本
トラスネジ（M5 × 6mm）	4本
セムスネジ（M4 × 8mm）	1本
取り外しレバー	2本
リモコン	1個
電池（単3形）	2個

※これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。